

第2章 文献調査結果

2.1 調査概要

宮城県内の猛禽類生息分布の概況を把握するため、調査資料や学术论文等の既存文献及び有識者等からの聞き取りにより、情報の収集・整理を行った。

調査は、平成 12（2000）年以降の県内の猛禽類に関する調査資料や、学术论文、有識者等からの聞き取りによる情報収集を行い、調査対象の各種について以下の 3 つの図面を作成した。また、オオタカ、オジロワシ、オオワシ、チュウヒ、ミサゴ、ハヤブサの 6 種については、東日本大震災に関する情報の収集・整理も行った。

2.1.1 生息情報地域

既存文献等により生息情報を収集し、生息情報地域図を作成した。生息地域は表 2-1 に示す 3 つのカテゴリに分類した。

表 2-1 生息情報カテゴリ

カテゴリ		選定基準
A	繁殖確認	平成 17（2005）年以降に繁殖に使用した巣がある。なお、詳細な位置が分からないメッシュ単位での情報も含む。
B	繁殖の可能性あり	<ul style="list-style-type: none">平成 17（2005）年以降に繁殖に係わる情報はあるが、巣は見つかっていない。平成 17（2005）年以降に巣が存在していたが、現在は落巢した。平成 17（2005）年以降は繁殖に使用していない巣がある。
C	生息のみ確認	平成 12（2000）年以降に生息の情報はあるが繁殖は確認されていない。

2.1.2 営巣地位置の情報

既存文献等により平成 17（2005）年以降の営巣地情報を収集し、情報が得られた種について営巣地位置図を作成した。なお、営巣地は同一ペアのものや既に消滅したものも含んでいる。

2.1.3 前回調査結果

前回調査（宮城県猛禽類生息調査報告書（宮城県 2000））に報告されている生息分布調査の現地調査結果より生息情報を収集し、生息情報地域図を作成した。

なお、前回調査の報告書では、ミサゴ、ハイタカ、オオタカ、ハヤブサの 4 種については、非営巣期に繁殖場所から離れることがあるため、営巣期と非営巣期に分けて生息情報地域図を作成したが、今回作成する生息情報地域図については、営巣期と非営巣期を合わせたものとした。また、イヌワシについては、前回と同様に 2 次メッシュ図で作成した。

2.2 調査結果

調査対象種の生息情報地域、営巣地情報の位置、前回調査報告書の結果を以下に示した。また、文献情報が得られた地域を図 2-1 に示す。

文献情報は、環境調査等のある程度網羅的に調査が行われたものと、目撃情報等の単体の記録を扱ったものがあり、それらの記録が重複するメッシュについては、環境調査等のメッシュとして示した。なお、空白のメッシュや目撃情報等における確認結果は、本調査で生息文献情報が得られなかったメッシュや特定の種のみ目撃されたメッシュであり、すべての調査対象種が生息していないことを示したものではない。

なお、空白のメッシュは、文献調査で生息情報が得られなかったメッシュであり、実際には調査対象種が生息している可能性がある。

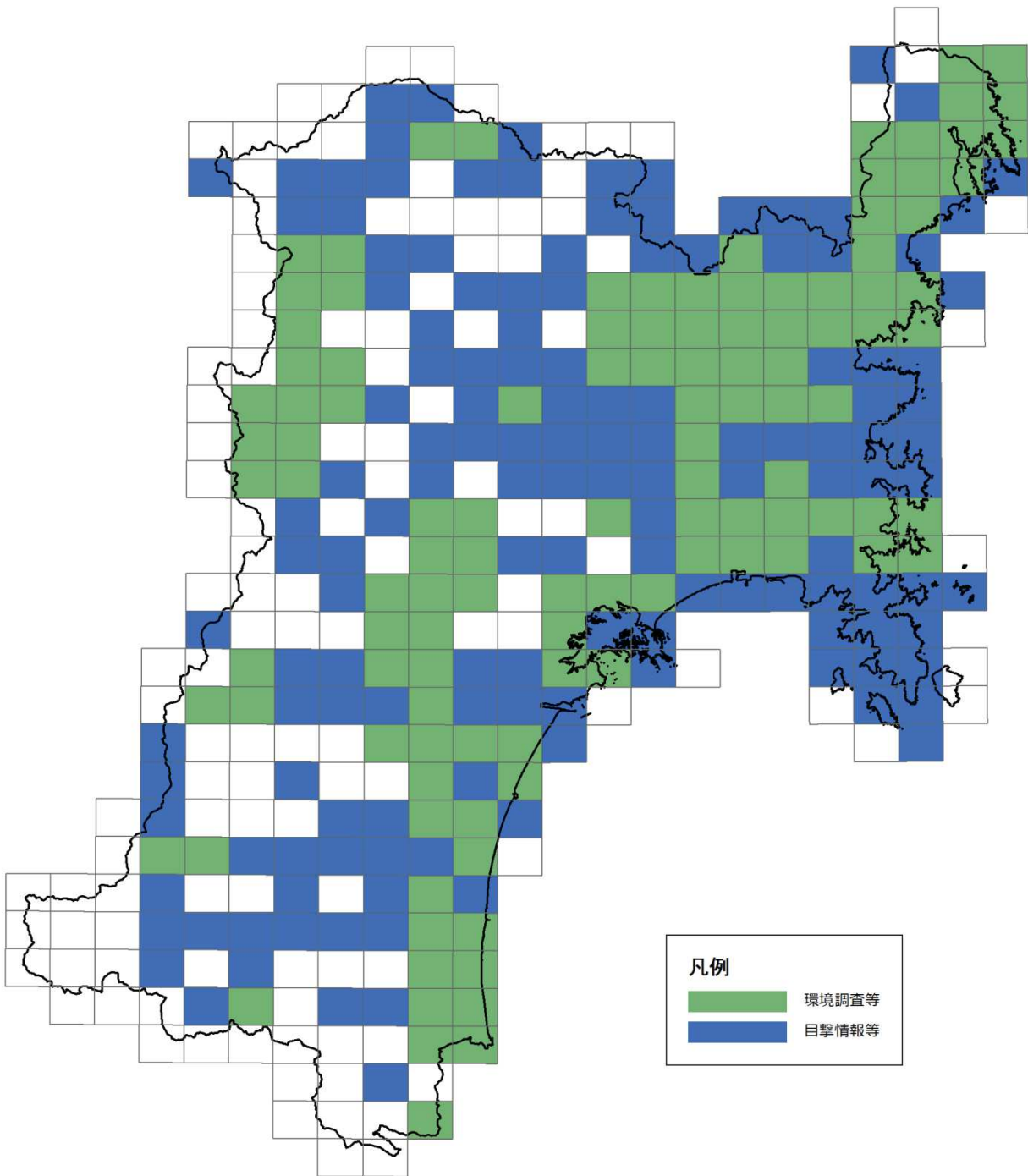


図 2-1 文献調査範囲

環境調査等：環境調査報告書のように、ある程度網羅的に調査が行われたメッシュ

目撃情報等：目撃情報等、単体の記録のメッシュ

2.2.1 イヌワシ

全県 380 メッシュ中、生息確認の情報があつたものは 22 メッシュであつた（図 2-2(1)）。このうち、繁殖情報（繁殖の可能性ありを含む）があつたものは 6 メッシュであつた。

確認場所は北上山地と奥羽山脈の一部のみであつた。また、営巣地の情報は 25 地点（同一ペアのものを含む）あつた（図 2-2(2)）。

前回調査（2 次メッシュで整理：図 2-2(3)）では、北上山地のほか、奥羽山脈の栗駒山周辺や秋保周辺、蔵王周辺において生息確認の情報があつた。

前回調査では県内で 5 ペアの生息が確認されていたが、平成 20（2008）年以降でペアが確実に確認されているのは、北上山地と奥羽山脈で各 1 ペア、計 2 ペアとなっている。

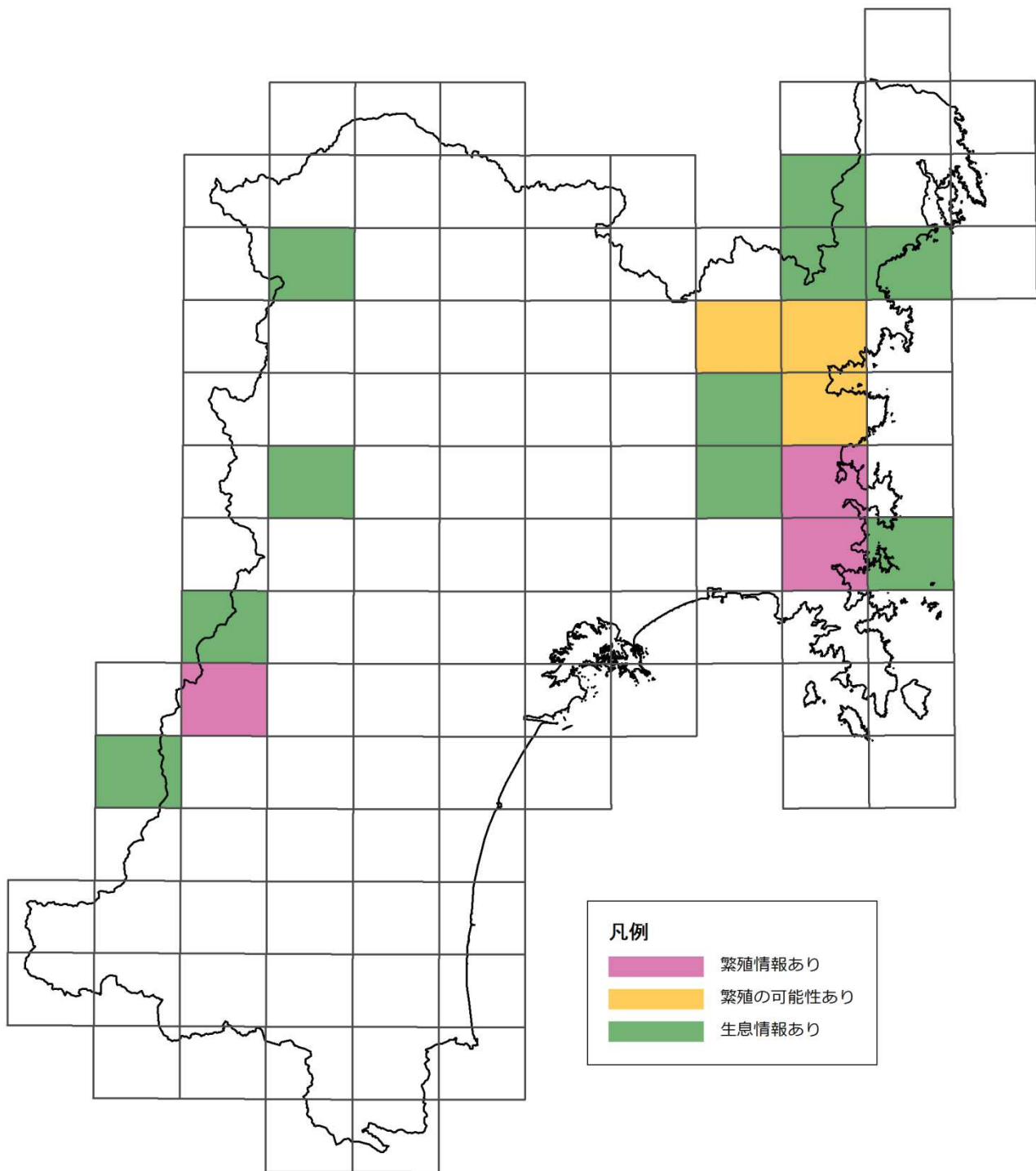


図 2-2(1) イヌワシ : 生息情報地域

種の保護の観点から非公表

図 2-2(2) イヌワシ：営巣地情報の位置

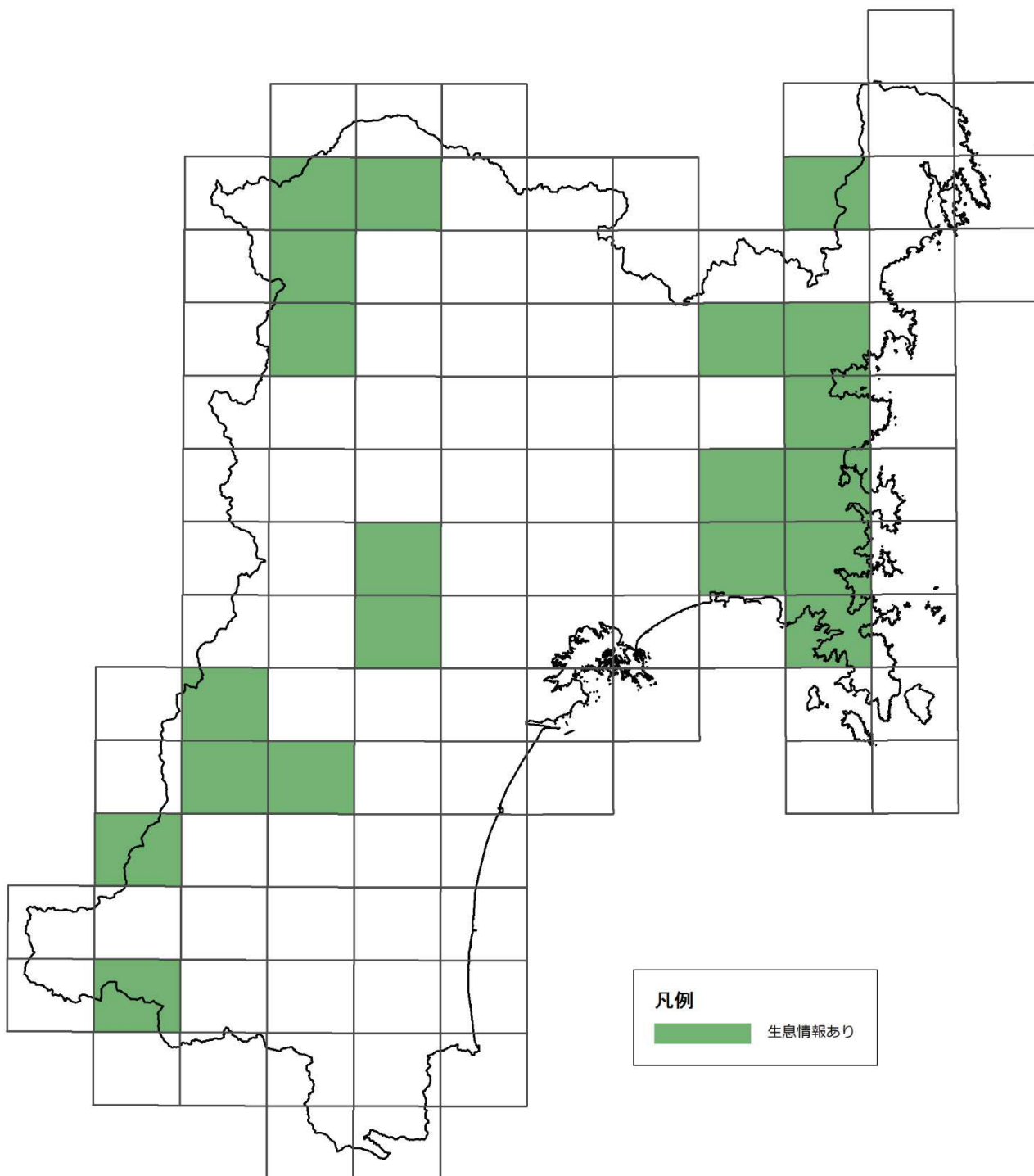


図 2-2(3) イヌワシ : 前回調査における生息情報地域

2.2.2 クマタカ

全県 380 メッシュ中、生息確認の情報があったものは 59 メッシュであった（図 2-3(1)）。このうち、繁殖情報（繁殖の可能性ありを含む）があったものは 16 メッシュであった。

確認場所は北上山地の一部、奥羽山脈では栗駒山から船形山にかけてと大東岳周辺や泉ヶ岳周辺、蔵王周辺の一部であった。また、営巣地の情報は 29 地点（同一ペアのものを含む）あった（図 2-3(2)）。主に山岳地に営巣地情報があるが、仙台市街地に近接する低標高の丘陵地においても繁殖に係わる情報が得られた。

前回調査において生息情報があったものは 63 メッシュあり、確認場所は北上山地の一部、奥羽山脈の栗駒山から漆沢ダム周辺にかけてと泉ヶ岳から作並温泉周辺、蔵王から七ヶ宿町周辺にかけてであった（図 2-3(3)）。また、営巣地の情報は 10 地点あった。

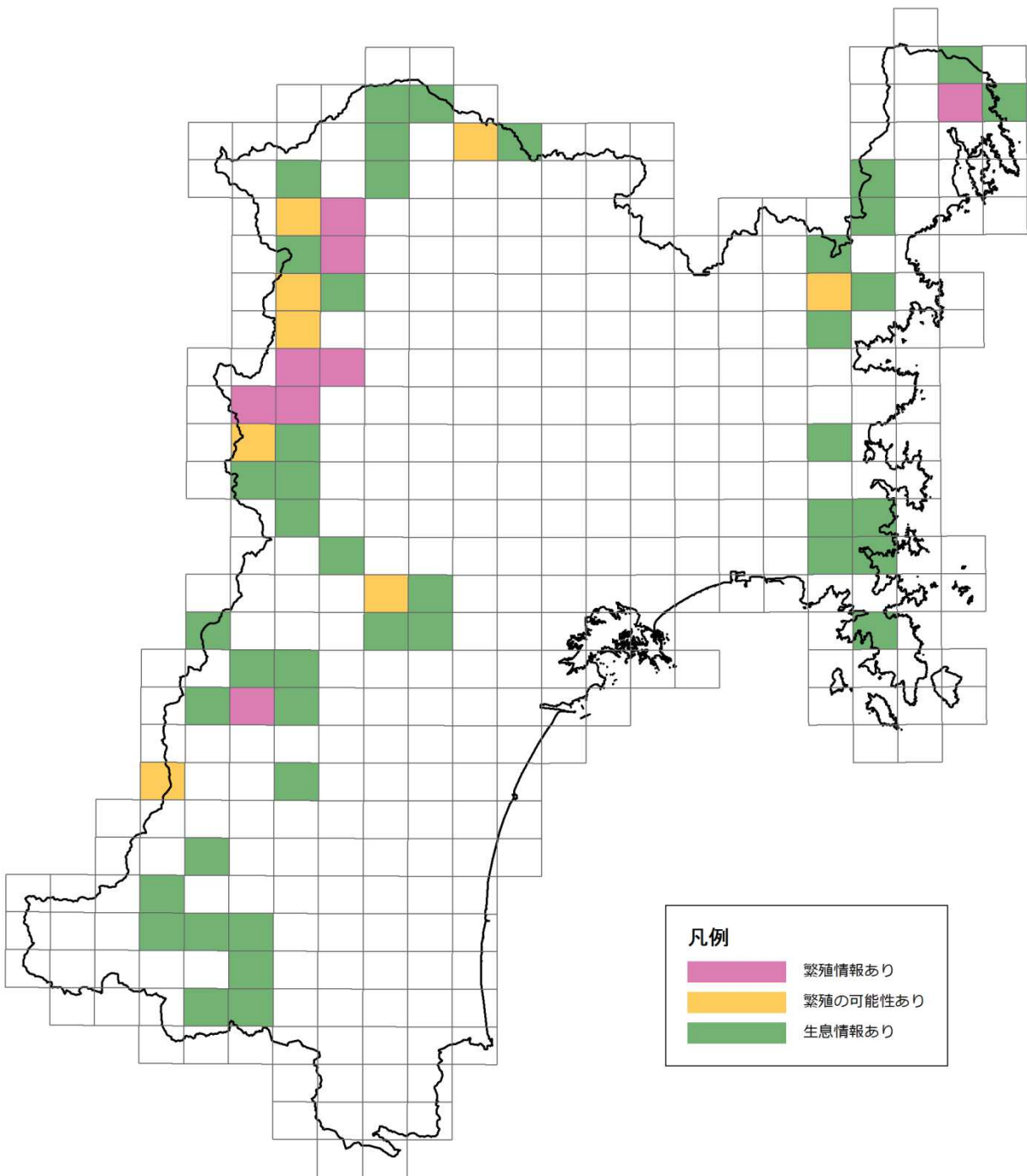


図 2-3(1) クマタカ : 生息情報地域

種の保護の観点から非公表

図 2-3(2) クマタカ：営巣地情報の位置

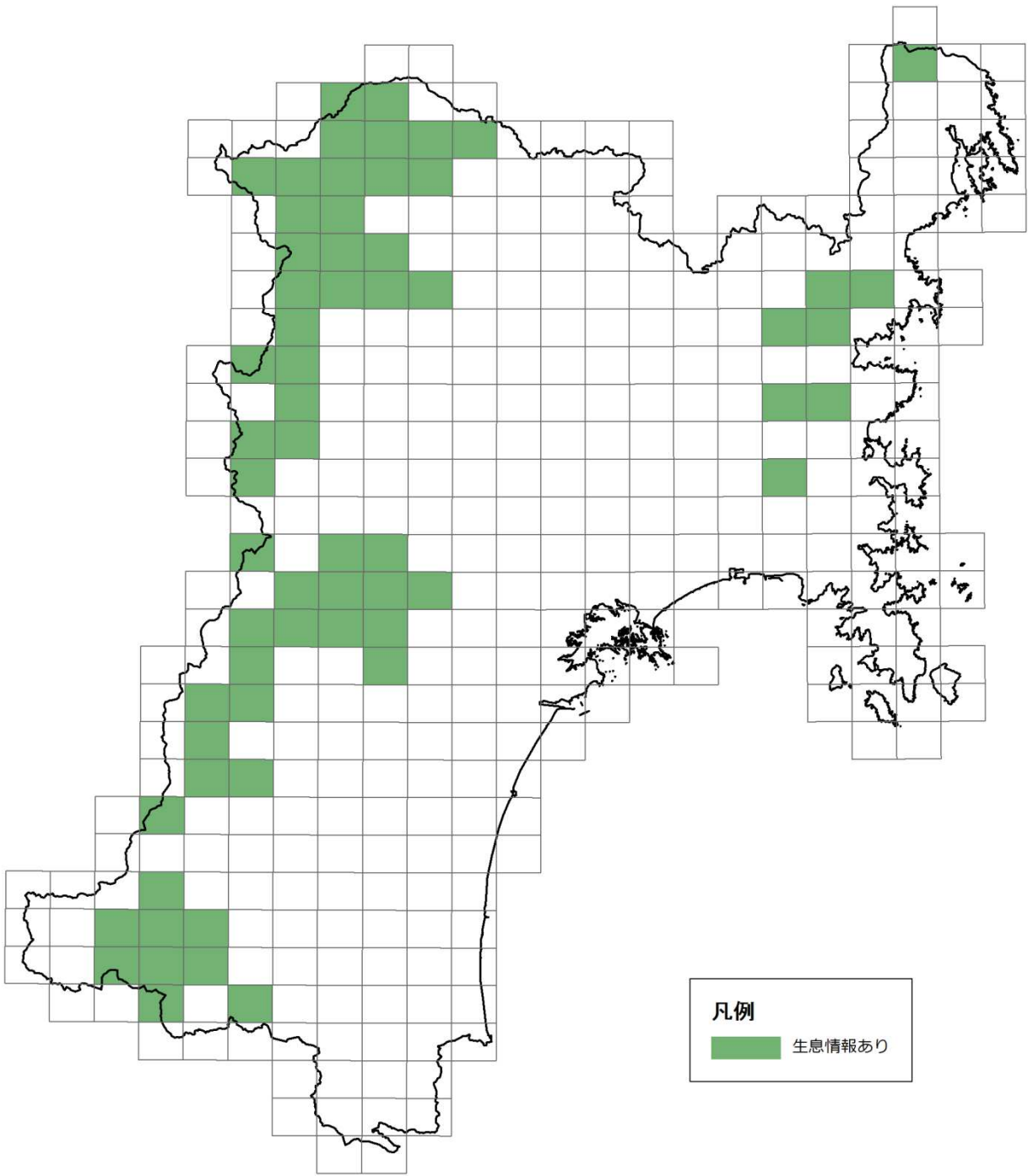


図 2-3(3) クマタカ：前回調査における生息情報地域

2.2.3 オオタカ

全県 380 メッシュ中、生息確認の情報があったものは 157 メッシュであった（図 2-4(1)）。このうち、繁殖情報（繁殖の可能性ありを含む）があったものは 46 メッシュであった。

確認場所は北上山地や北上川流域、太平洋沿岸部から内陸部の平地や丘陵地、奥羽山脈の高標高地を除く山地等であった。また、営巣地の情報は 94 地点（同一ペアのものを含む）あった（図 2-4(2)）。このうち、仙台湾沿岸部のクロマツを中心とした海岸林で繁殖するオオタカについては、震災に伴う津波により海岸林の高木の大部分が消失したものの、震災後もパッチ状に残存した海岸林の 5 箇所繁殖が確認されているとの情報が有識者より得られた（表 2-2）。

前回調査において生息情報があったものは 144 メッシュあり、確認場所は北上山地中部以南や北上川流域、太平洋沿岸部から内陸部の平地や丘陵地、奥羽山脈、阿武隈山地等であった（図 2-4(3)）。また、営巣地の情報は 25 地点あった。

表 2-2 海岸林に生息するオオタカの繁殖状況

ペア名	平成 21 (2009)年	平成 22 (2010)年	平成 23 (2011)年	平成 24 (2012)年	平成 25 (2013)年	平成 26 (2014)年	平成 27 (2015)年
A	—	—	—	○	○	○	×
B	—	△?	—	◎	◎	○	○
C	—	—	—	◎	×	×	×
D	—	—	—	◎	◎	◎	○
E	—	—	—	◎	◎	◎	×

※有識者からの情報に基づき作成。

※表中の凡例は以下に示すとおりである。

◎：繁殖、○：途中で失敗 △：繁殖の兆候あったが抱卵せず ×：繁殖せず、
落：落巢 —：情報なし ?：不確かな情報

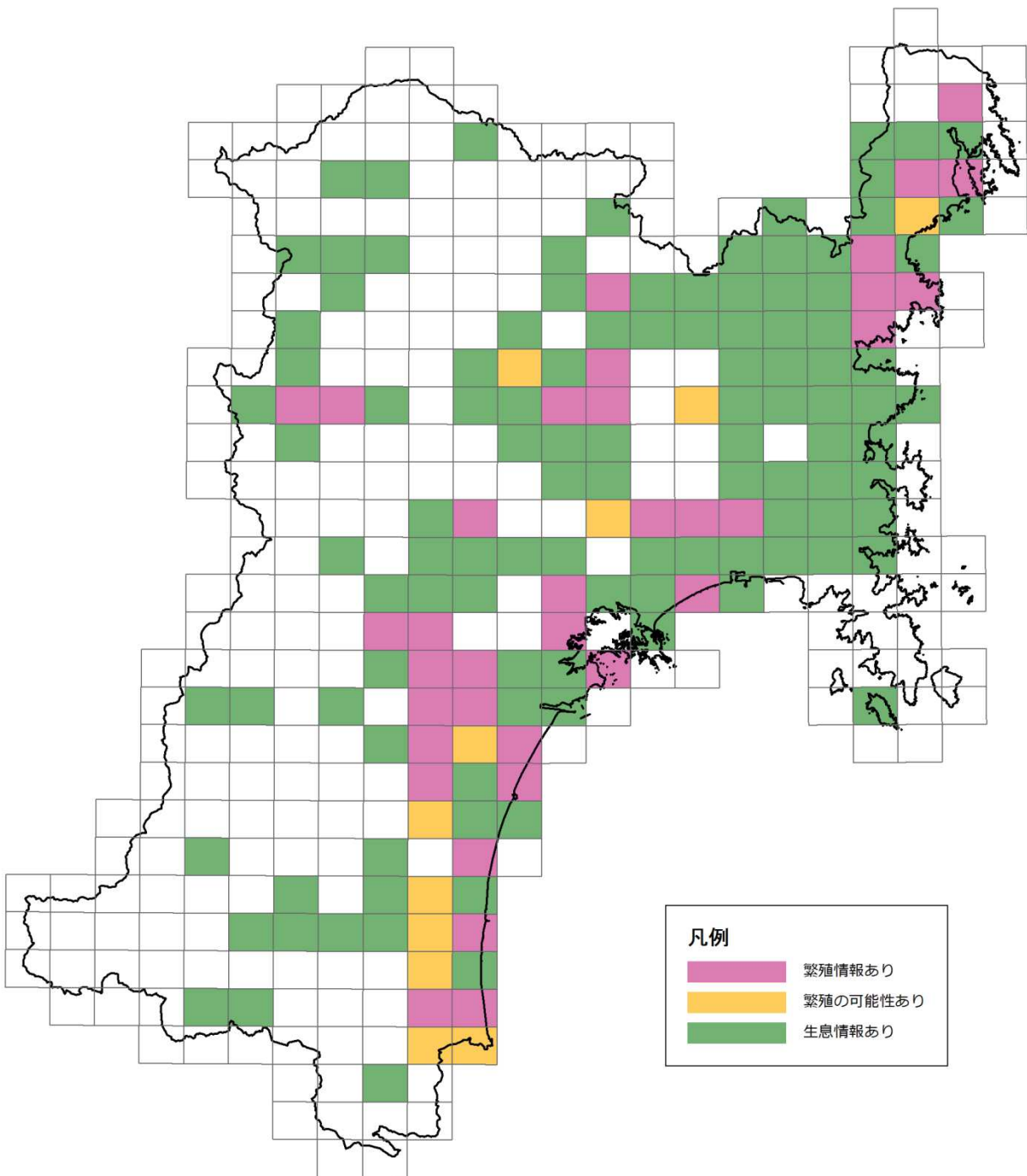


図 2-4(1) オオタカ : 生息情報地域

種の保護の観点から非公表

図 2-4(2) オオタカ：営巣地情報の位置

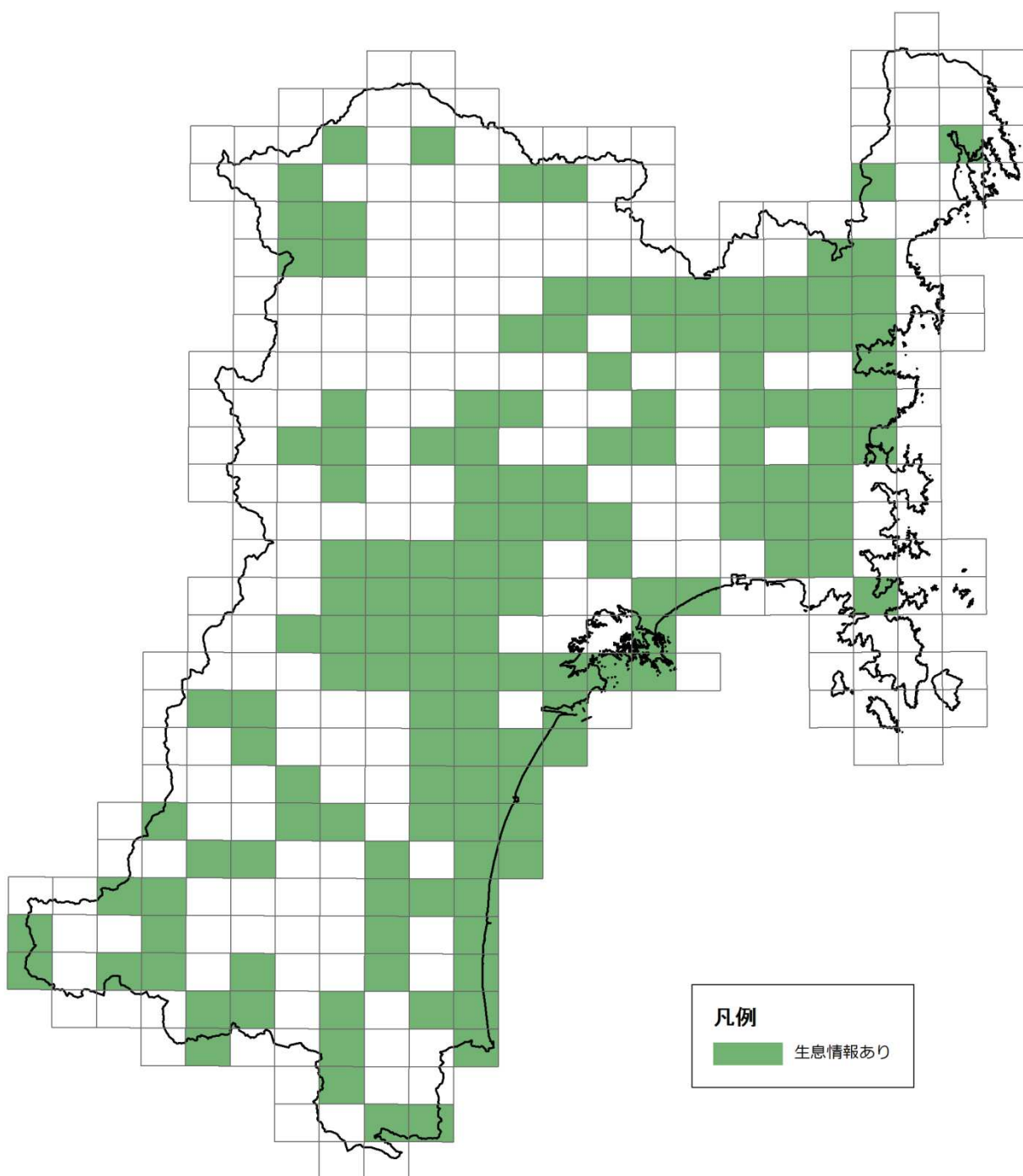


図 2-4(3) オオタカ：前回調査における生息情報地域

2.2.4 サシバ

全県 380 メッシュ中、生息確認の情報があつたものは 79 メッシュであつた (図 2-5(1))。このうち、繁殖情報 (繁殖の可能性ありを含む) があつたものは 14 メッシュであつた。

確認場所は北上山地北部のほか、仙台平野の一部、内陸部の丘陵地や山地にかけて散在してゐた。また、営巣地の情報は 18 地点 (同一ペアのものを含む) あつた (図 2-5(2))。

なお、前回調査では調査対象種ではなかつたことから、前回調査の生息情報はなゐ。

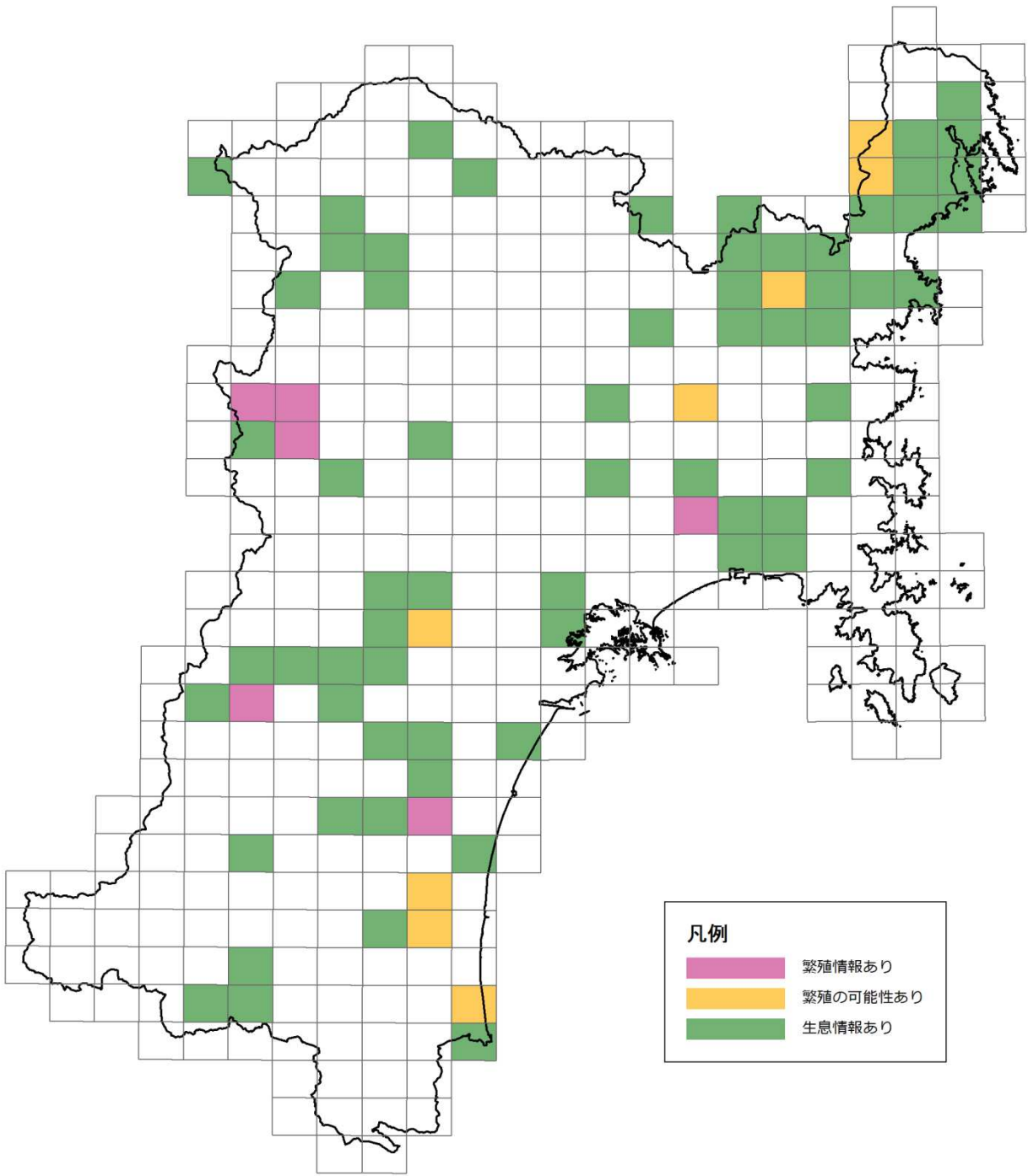


図 2-5(1) サンバ：生息情報地域

種の保護の観点から非公表

図 2-5(2) サシバ：営巣地情報の位置

2.2.5 ミサゴ

全県 380 メッシュ中、生息確認の情報があつたものは 144 メッシュであつた（図 2-6(1)）。このうち、繁殖情報（繁殖の可能性ありを含む）があつたものは 39 メッシュであつた。

確認場所は北上山地の太平洋側や牡鹿半島、北上川流域、石巻湾から仙台湾にかけての海岸部、内陸部の湖沼群や河川等であつた。また、営巣地の情報は 70 地点あつた（図 2-6(2)）。

前回調査において生息情報があつたものは 78 メッシュあり、確認場所は北上山地中部以南や牡鹿半島、北上川流域、松島湾から仙台湾にかけての海岸部、内陸部の湖沼群や河川等であつた（図 2-6(3)）。また、営巣地の情報は 25 地点あつた。

東日本大震災による本種への影響について、立花(2014)¹は、北上川河口から下流域約 20km の区間では、震災の翌年の冬季（平成 23（2011）年度）には確認回数及び個体数が減少したが、その後、平成 24（2012）年度には回復したと報告している（表 2-3）。一方で、平成 22（2010）年から平成 25（2013）年にかけての繁殖状況は、石巻市と南三陸町で著しく悪化していた（表 2-4）。その理由として、震災復旧工事による採食環境の攪乱や、地盤沈下に伴う河口域の塩分濃度の上昇により淡水魚の生息数が減少したことを挙げている。また、有識者から得た情報では、太平洋沿岸域における 2 ペアの繁殖状況を調査した結果、内陸のため池を主な採食地としているペアについては、継続して繁殖が成功しているものの、沿岸海域を採食地としているペアは、震災直後には繁殖を途中中止した年があつたと報告されている（表 2-5）。さらに別の情報によると、津波による攪乱を受け残存した海岸林では、数箇所では本種の営巣が確認されたがこれらの繁殖地では、ペアにより営巣放棄を繰り返しており、その理由として、3月下旬から4月上旬における海岸林の再整備事業や農地復旧工事等が産卵の不調や巣の放棄をもたらした可能性があるとして報告されている。このように、本種の営巣活動は、営巣期に実施された震災直後の緊急作業に伴う一時的な影響に加え、その後一斉に開始された防潮堤工事や海岸林の再整備事業等といった復旧・復興事業の影響を受けている可能性がある。

表 2-3 震災前後の生息確認状況

	震災前		震災後	
	平成 21（2009）年度	平成 22（2010）年度	平成 23（2011）年度	平成 24（2012）年度
確認回数	52	37	21	36
確認個体数	73	49	25	41

※出典：「東日本大震災による影響」（立花 2014）を基に作成。

¹ 立花繁信.2014. 東日本大震災による鳥類生息への影響. 南三陸ワシタカ研究会 2012 年度調査年報. 30:6-8.

表 2-4 震災前後のミサゴの繁殖巣の数

地域	平成 22 (2010) 年	震災後調査巣	平成 23 (2011) 年	平成 24 (2012) 年	平成 25 (2013) 年
気仙沼市	2	2	1	1	1
南三陸町	6	6	0	0	1
登米市	1	1	0	0	0
石巻市	28	16	0	0	0
女川町	1	1	0	0	0

※ 出典：「東日本大震災による影響」（立花 2014）を基に作成。

表 2-5 採食地の違いによる震災前後の繁殖状況の比較

ペア名	主な採食地	震災前			震災後				
		平成 20 (2008) 年	平成 21 (2009) 年	平成 22 (2010) 年	平成 23 (2011) 年	平成 24 (2012) 年	平成 25 (2013) 年	平成 26 (2014) 年	平成 27 (2015) 年
A	沿岸海域	×	×	○	—	△	○	○	○
B	内陸ため池	△	○	○	○	○	○	△落巢	○

※ 有識者からの情報に基づき作成。

※ 表中の凡例は以下に示すとおりである。

○：繁殖成功、△：繁殖途中中止、×：繁殖なし、—：調査なし、落巢：自然落巢

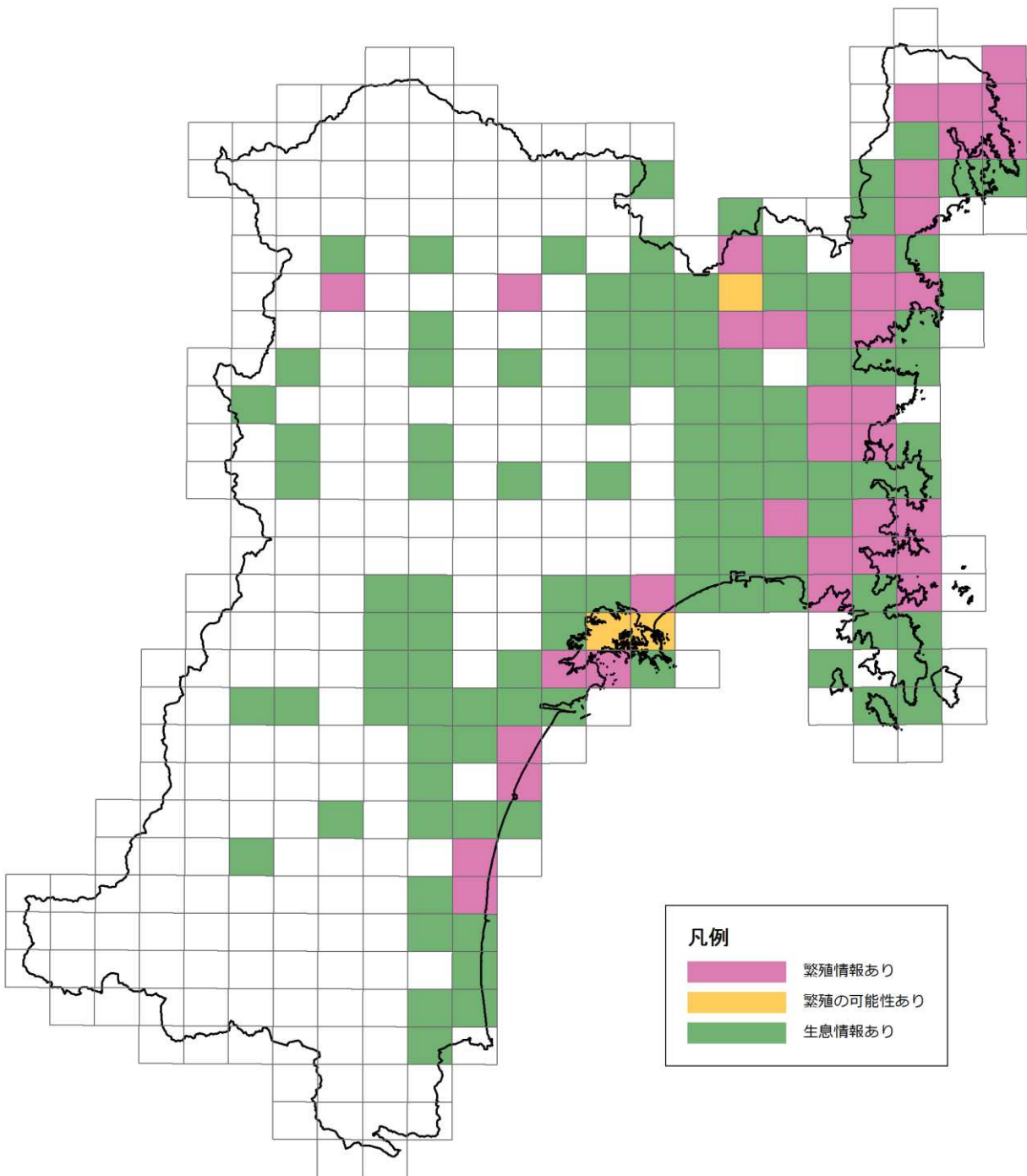


図 2-6(1) ミサゴ : 生息情報地域

種の保護の観点から非公表

図 2-6(2) ミサゴ：営巣地情報の位置

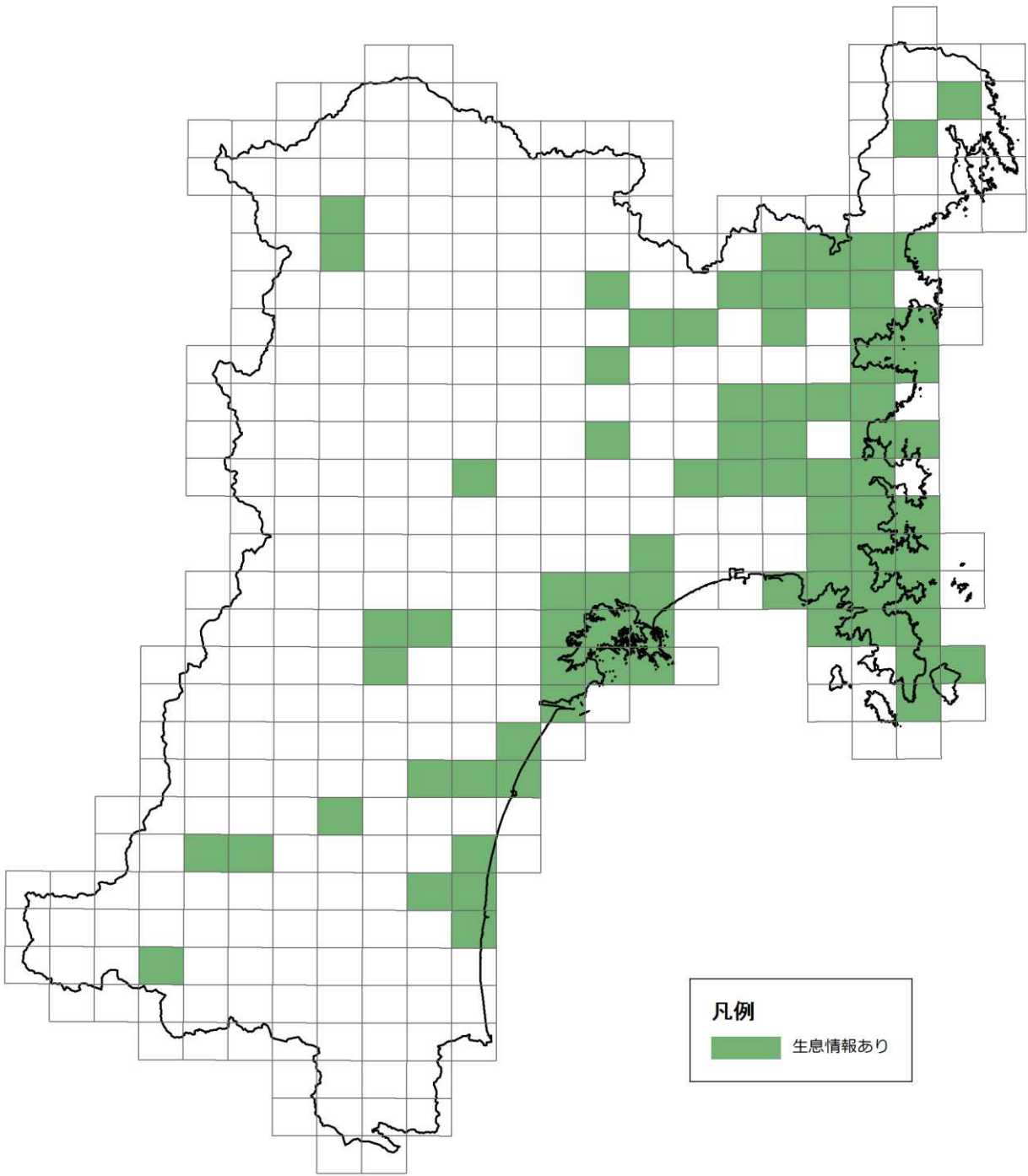


図 2-6(3) ミサゴ : 前回調査における生息情報地域

2.2.6 ハヤブサ

全県 380 メッシュ中、生息確認の情報があつたものは 132 メッシュであつた（図 2-7(1)）。このうち、繁殖情報（繁殖の可能性ありを含む）があつたものは 13 メッシュであつた。

確認場所は北上山地や仙台湾の海岸部、内陸部の平地や丘陵地、鳴子から七ヶ宿町にかけての山地の一部等であつた。また、営巣地の情報は 14 地点あつた（図 2-7(2)）。なお、平野部において人工構造物（電波塔）での繁殖事例がある。

前回調査において生息情報があつたものは 102 メッシュあり、確認場所は北上山地中部以南や牡鹿半島、北上川流域、石巻湾から仙台湾にかけての海岸部、内陸の平地や丘陵地等であつた（図 2-7(3)）。また、営巣地の情報は 11 地点あつた。

東日本大震災による本種への影響について、立花（2014）¹は、北上川河口から下流域約 20km の区間では、震災の翌年の冬季（平成 23（2011）年度）以降、確認回数及び個体数は震災以前と比較して大幅に減少したと報告している（表 2-6）。また、繁殖地のある無人島や海岸部の崖地が地震と津波により崩落する等の被害があつたとしている。

表 2-6 震災前後の生息確認状況

	震災前		震災後	
	平成 21（2009）年度	平成 22（2010）年度	平成 23（2011）年度	平成 24（2012）年度
確認回数	21	12	8	5
確認個体数	25	12	8	5

※ 出典：「東日本大震災による影響」（立花 2014）を基に作成。

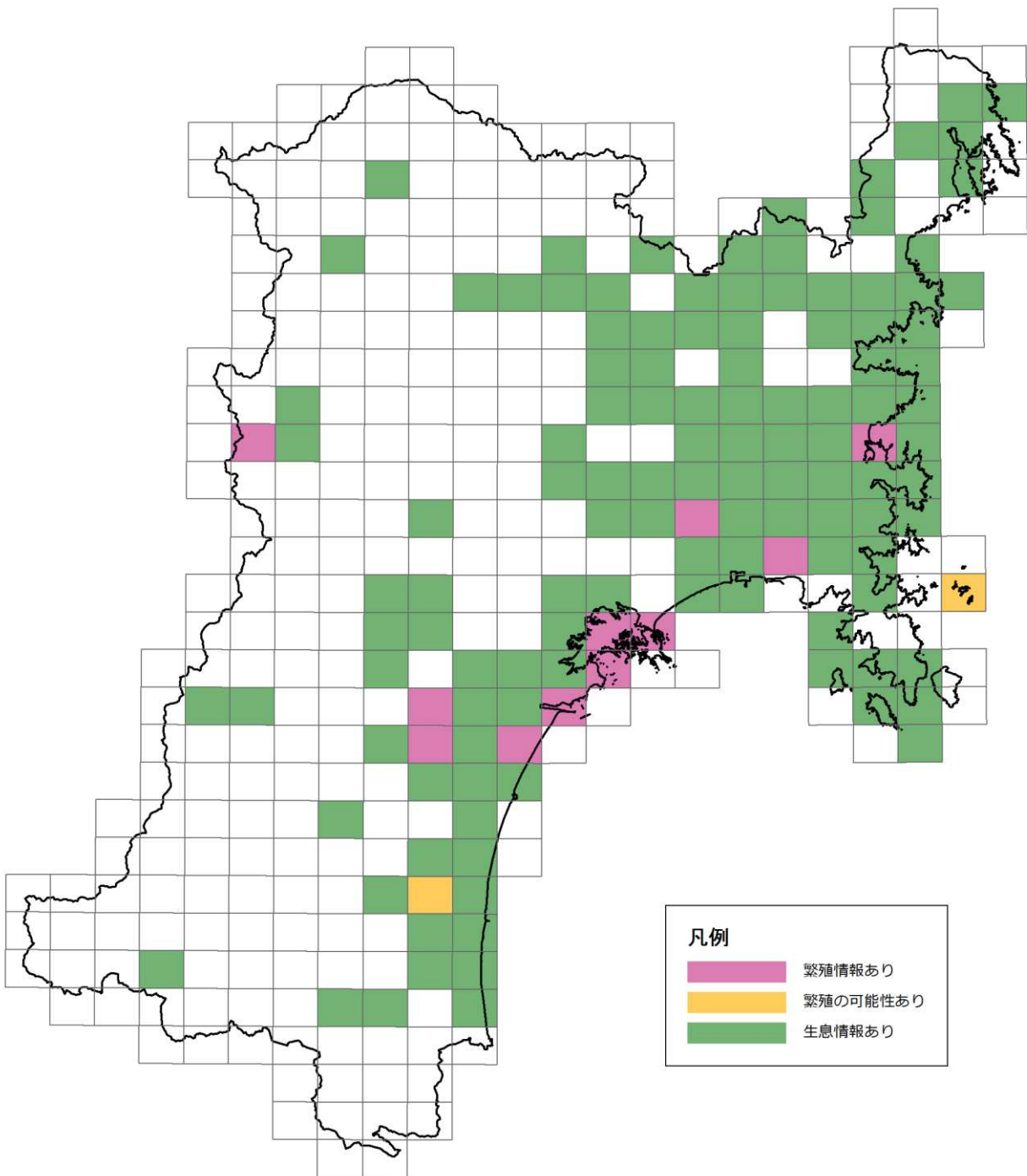


図 2-7(1) ハヤブサ：生息情報地域

種の保護の観点から非公表

図 2-7(2) ハヤブサ：営巣地情報の位置

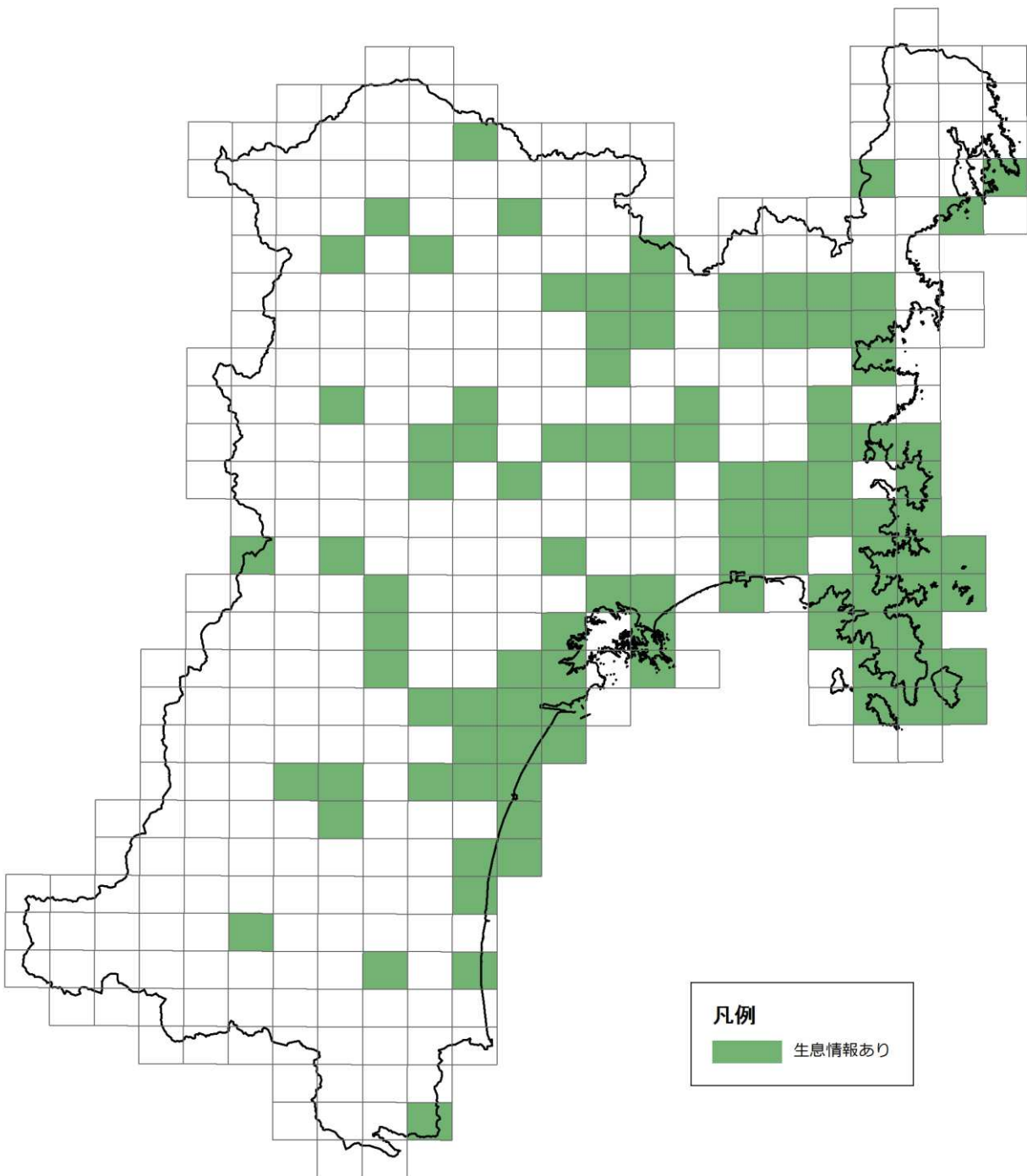


図 2-7(3) ハヤブサ：前回調査における生息情報地域

2.2.7 オジロワシ

全県 380 メッシュ中、生息確認の情報があつたものは 42 メッシュであつた（図 2-8(1)）。本種は宮城県内では冬鳥であり、繁殖情報はない。

確認場所は北上山地の太平洋側や北上川流域、仙台湾の海岸部、大崎平野周辺や県南部の湖沼群・河川等であつた。

前回調査において生息情報があつたものは 49 メッシュあり、確認場所は北上山地の太平洋側や牡鹿半島、北上川流域、大崎平野周辺や内陸部（県中部、県南部）の湖沼群・河川等であつた（図 2-8(2)）。

東日本大震災による本種への影響について、立花（2014）¹は、北上川河口から下流域約 20km の区間では、震災の翌年の冬季（平成 23（2011）年度）には確認回数及び個体数が減少したが、その後、平成 24（2012）年度には回復しており、震災による影響は認められなかつたと報告している（表 2-7）。また、オジロワシ・オオワシ合同調査グループ（未発表）においても、北上山地の太平洋側と内陸の湖沼群周辺のいずれも、震災前後の個体数には大きな変化が見られなかつたことから、震災による影響はほとんどなかつたものと考えられる。

表 2-7 震災前後の生息確認状況

	震災前		震災後	
	平成 21（2009）年度	平成 22（2010）年度	平成 23（2011）年度	平成 24（2012）年度
確認回数	6	15	2	8
確認個体数	8	16	4	9

※ 出典：「東日本大震災による影響」（立花 2014）を基に作成。

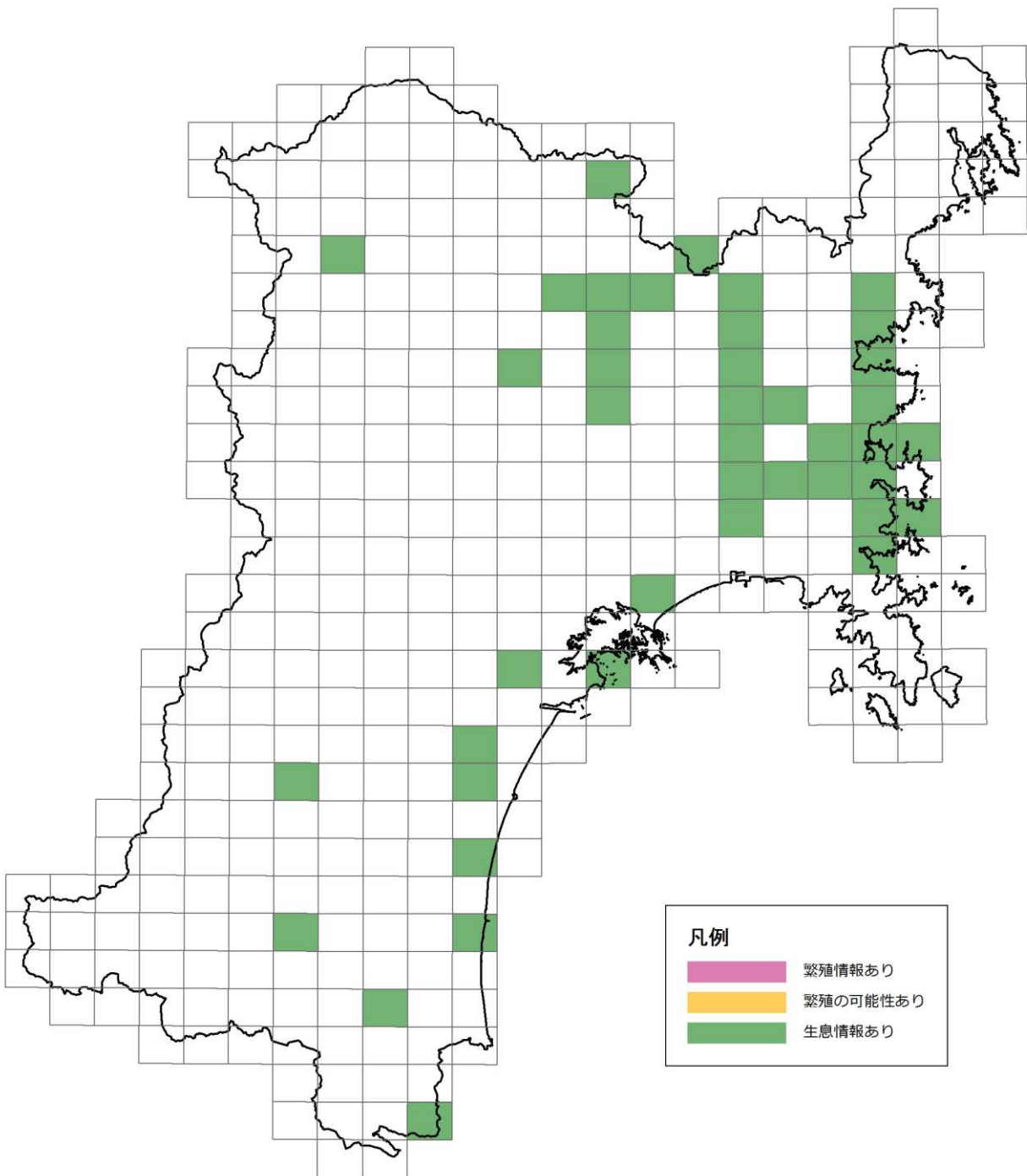


図 2-8(1) オジロワシ : 生息情報地域

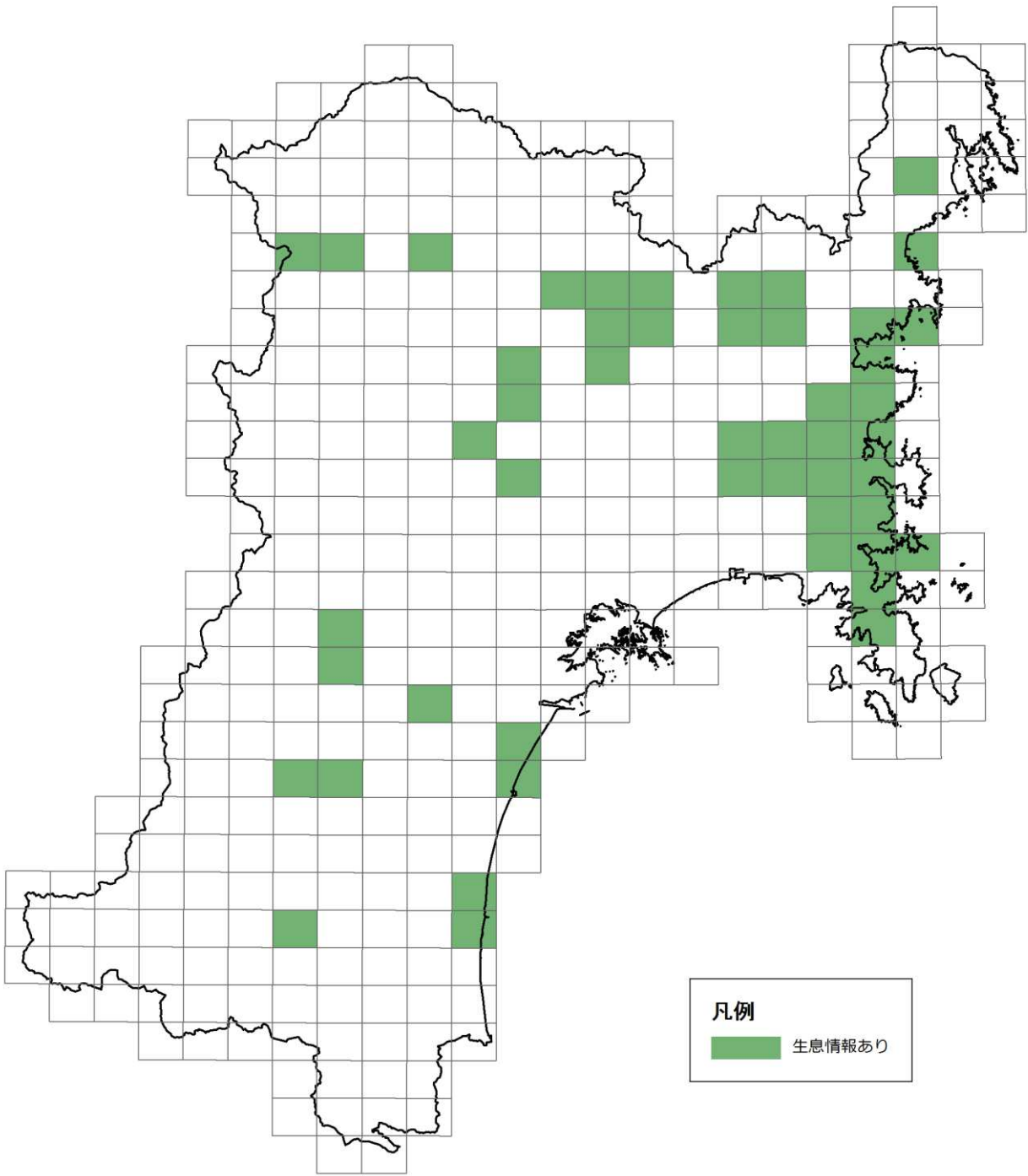


図 2-8(2) オジロワシ : 前回調査における生息情報地域

2.2.8 オオワシ

全県 380 メッシュ中、生息確認の情報があつたものは 44 メッシュであつた（図 2-9(1)）。本種は宮城県内では冬鳥であり、繁殖情報はない。

確認場所は北上山地の太平洋側や北上川流域、網地島、松島湾の海岸部等であつた。

前回調査において生息情報があつたものは 34 メッシュあり、確認場所は北上山地の太平洋側や牡鹿半島、北上川流域、仙台湾沿岸部の一部、栗原市や登米市周辺の湖沼群・河川等であつた（図 2-9(2)）。

東日本大震災による本種への影響について、立花（2014）¹は、北上川河口から下流域約 20km の区間では、震災の翌年の冬季（平成 23（2011）年度）には確認回数及び個体数は震災以前とほぼ同様であつたが、その後、平成 24（2012）年度には大幅に減少した報告している（表 2-8）。その理由として、本種は食物資源を養殖ギンザケに依存しており、その養殖施設が震災により壊滅的な影響を受けたことを挙げている。また、オジロワシ・オオワシ合同調査グループ（未発表）においても、北上山地の太平洋側のうち、石巻市雄勝湾～女川湾北部エリアと女川湾南岸～小屋取エリアでは、震災後に越冬個体数が減少していた。

表 2-8 震災前後の生息確認状況

	震災前		震災後	
	平成 21（2009）年度	平成 22（2010）年度	平成 23（2011）年度	平成 24（2012）年度
確認回数	6	25	18	5
確認個体数	6	27	19	5

※ 出典：「東日本大震災による影響」（立花 2014）を基に作成。

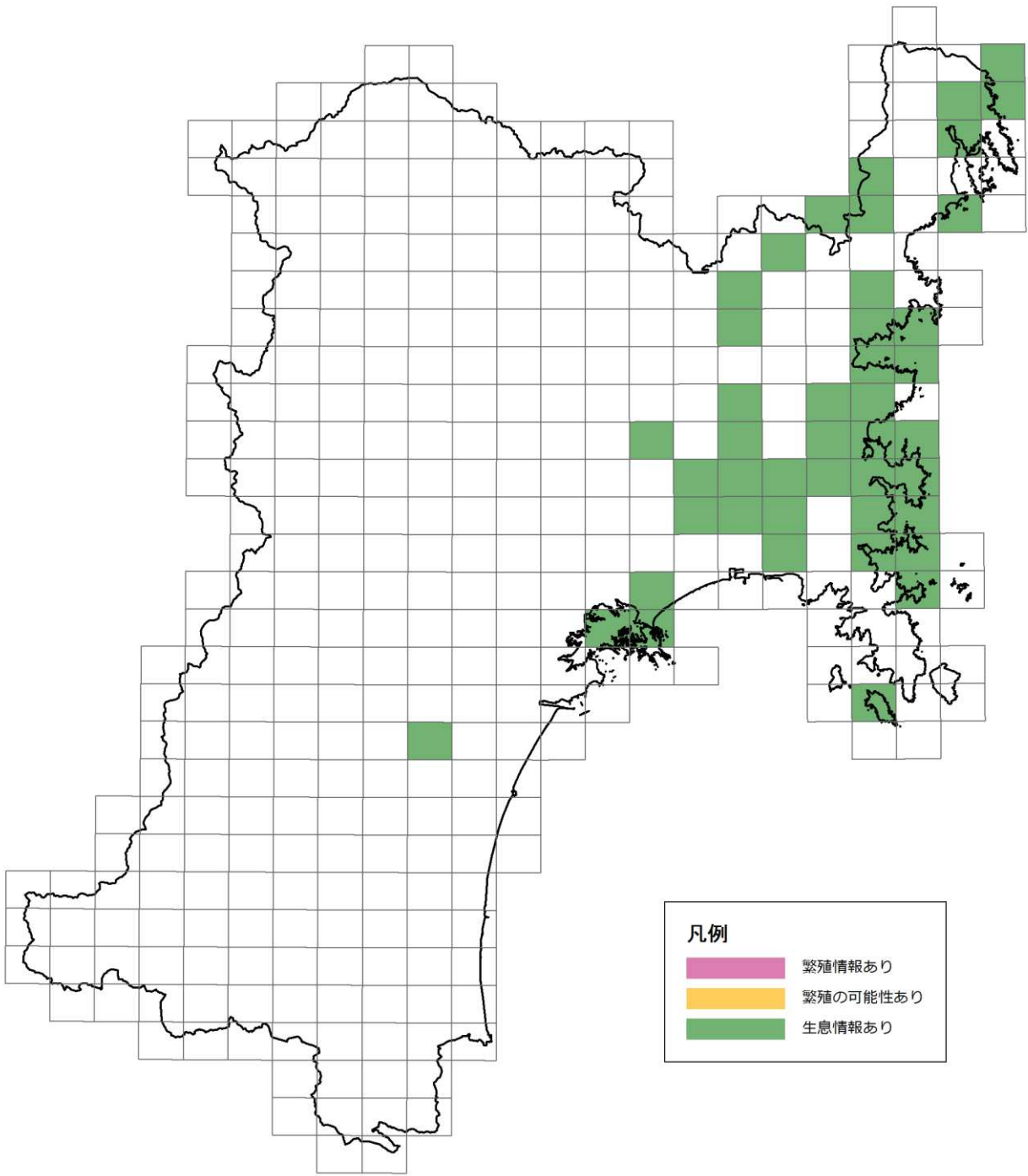


図 2-9(1) オオワシ : 生息情報地域

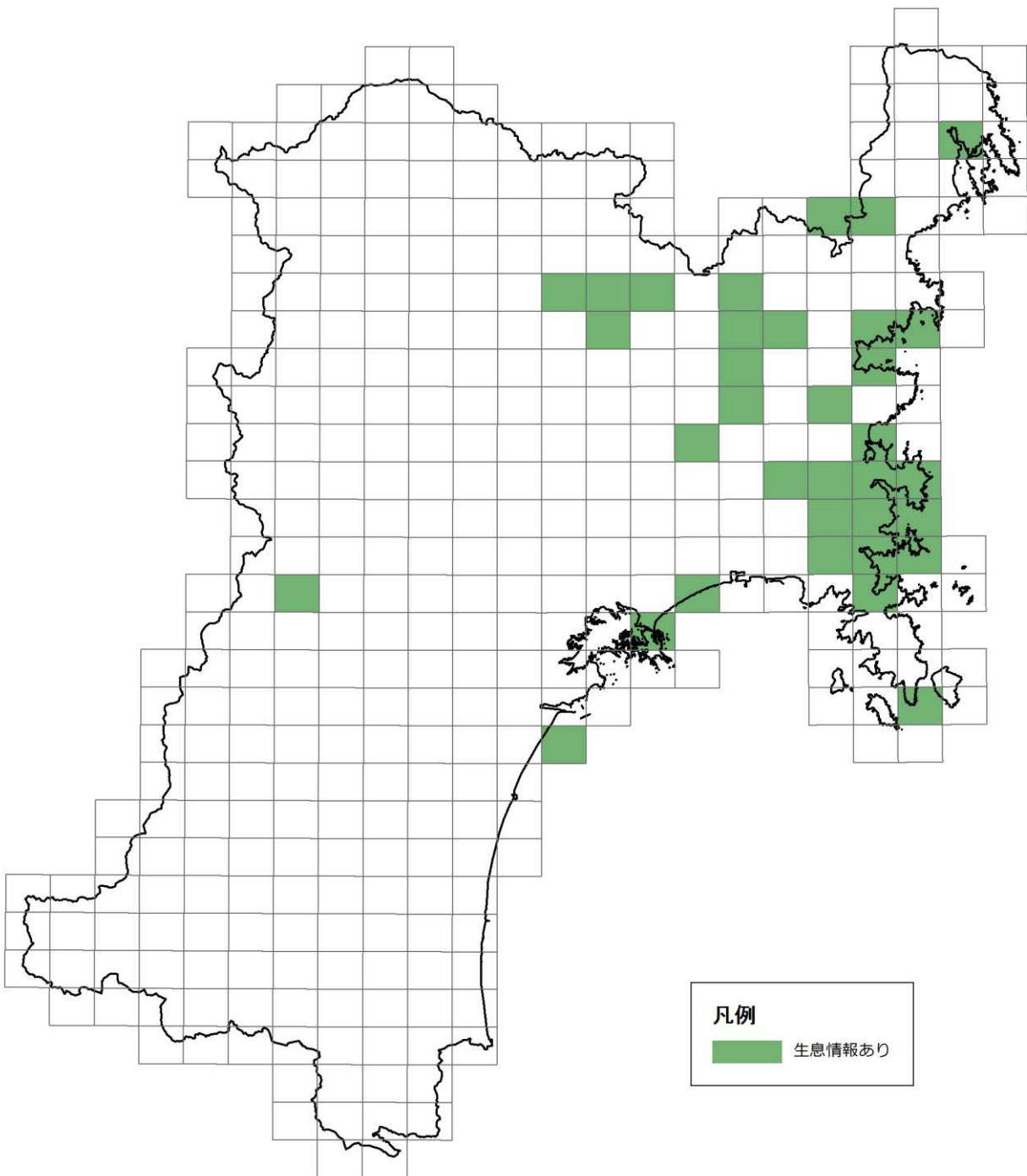


図 2-9(2) オオワシ : 前回調査における生息情報地域

2.2.9 チュウヒ

全県 380 メッシュ中、生息確認の情報があったものは 32 メッシュであった（図 2-10(1)）。なお、繁殖情報はなかった。

確認場所は北上川流域、大崎平野周辺の湖沼群、仙台湾沿岸部の河川の河口域等であった。

前回調査において生息情報があったものは 31 メッシュあり、確認場所は北上川流域、大崎平野周辺の湖沼群、吉田川流域、鳴瀬川流域（下流域）、仙台湾沿岸部の河川の河口域等であった（図 2-10(2)）。

東日本大震災による本種への影響について、立花（2014）¹は、北上川河口から下流域約 20km の区間では、震災の翌年の冬季（平成 23（2011）年度）以降、確認回数及び個体数は震災以前と比較して大幅に減少したと報告している（表 2-9）。その理由として、震災に伴う約 90cm の地盤沈下によりヨシ原が水没したことを挙げている。

表 2-9 震災前後の生息確認状況

	震災前		震災後	
	平成 21（2009）年度	平成 22（2010）年度	平成 23（2011）年度	平成 24（2012）年度
確認回数	26	46	7	6
確認個体数	33	63	8	8

※ 出典：「東日本大震災による影響」（立花 2014）を基に作成。

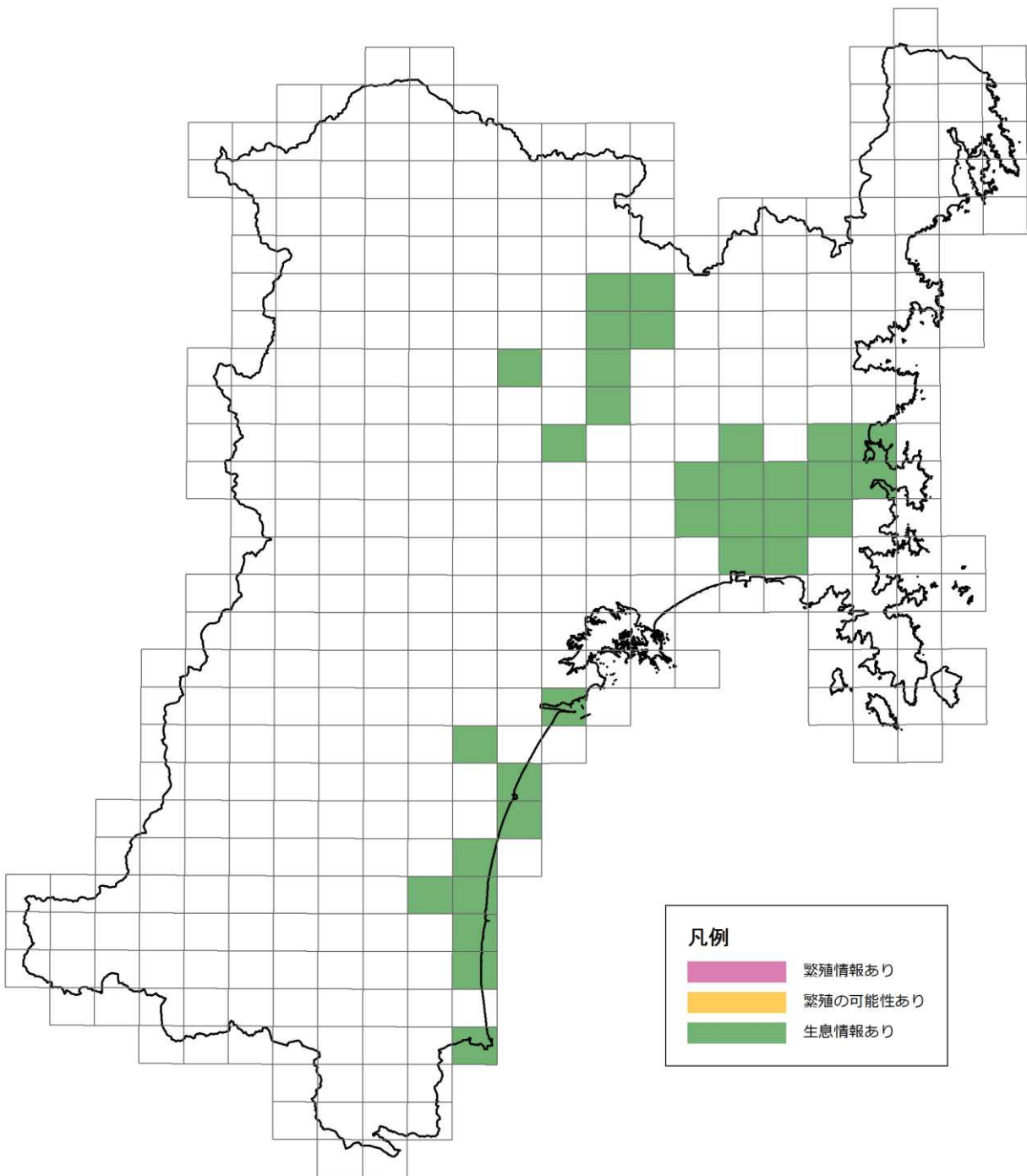


図 2-10(1) チュウヒ : 生息情報地域

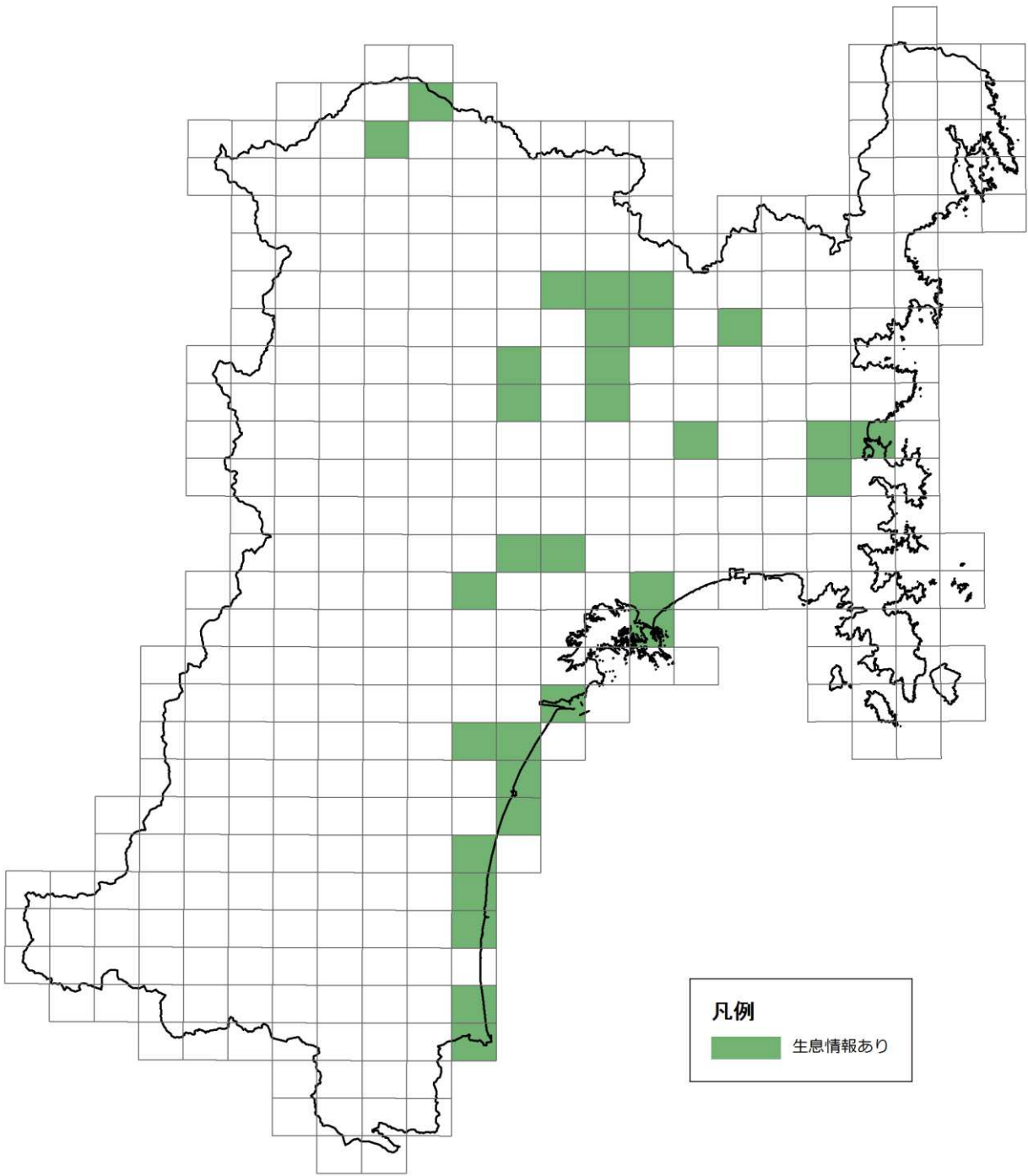


図 2-10(2) チュウヒ : 前回調査における生息情報地域

2.2.10 ハチクマ

全県 380 メッシュ中、生息確認の情報があったものは 59 メッシュであった（図 2-11(1)）。このうち、繁殖情報（繁殖の可能性あり）があったものは 3 メッシュであった。

確認場所は北上山地や栗駒山から船形山にかけての山地、二口溪谷周辺や蔵王周辺の山地、大崎平野、宮床ダム周辺、仙台市南部から名取市西部の山地等であった。また、営巣地の情報は 3 地点あった（図 2-11(2)）が、平成 27（2015）年現在、2 地点は落巢しており、1 地点は平成 17（2005）年以降は繁殖に使用していない。

なお、前回調査では調査対象種ではなかったことから、前回調査の生息情報はない。

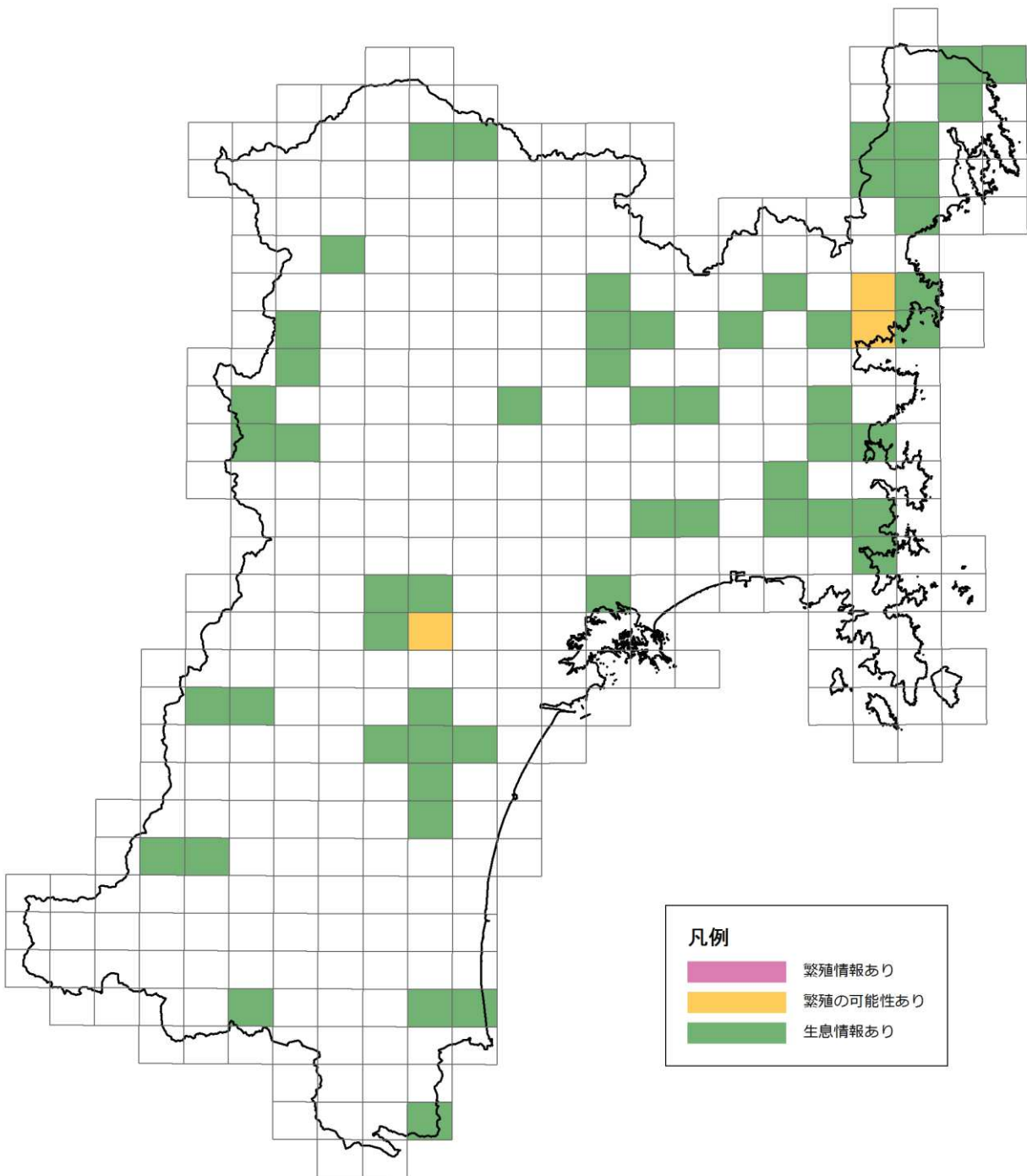


図 2-11(1) ハチクマ：生息情報地域

種の保護の観点から非公表

図 2-11(2) ハチクマ：営業地情報の位置

2.2.11 ツミ

全県 380 メッシュ中、生息確認の情報があつたものは 19 メッシュであつた（図 2-12）。なお、繁殖情報はなかつた。

確認場所は鳴子や船形山周辺の山地、七北田川流域の一部、名取市西部の山地、北上山地、阿武隈山地等で、散在していた。

なお、前回調査では調査対象種ではなかつたことから、前回調査の生息情報はない。

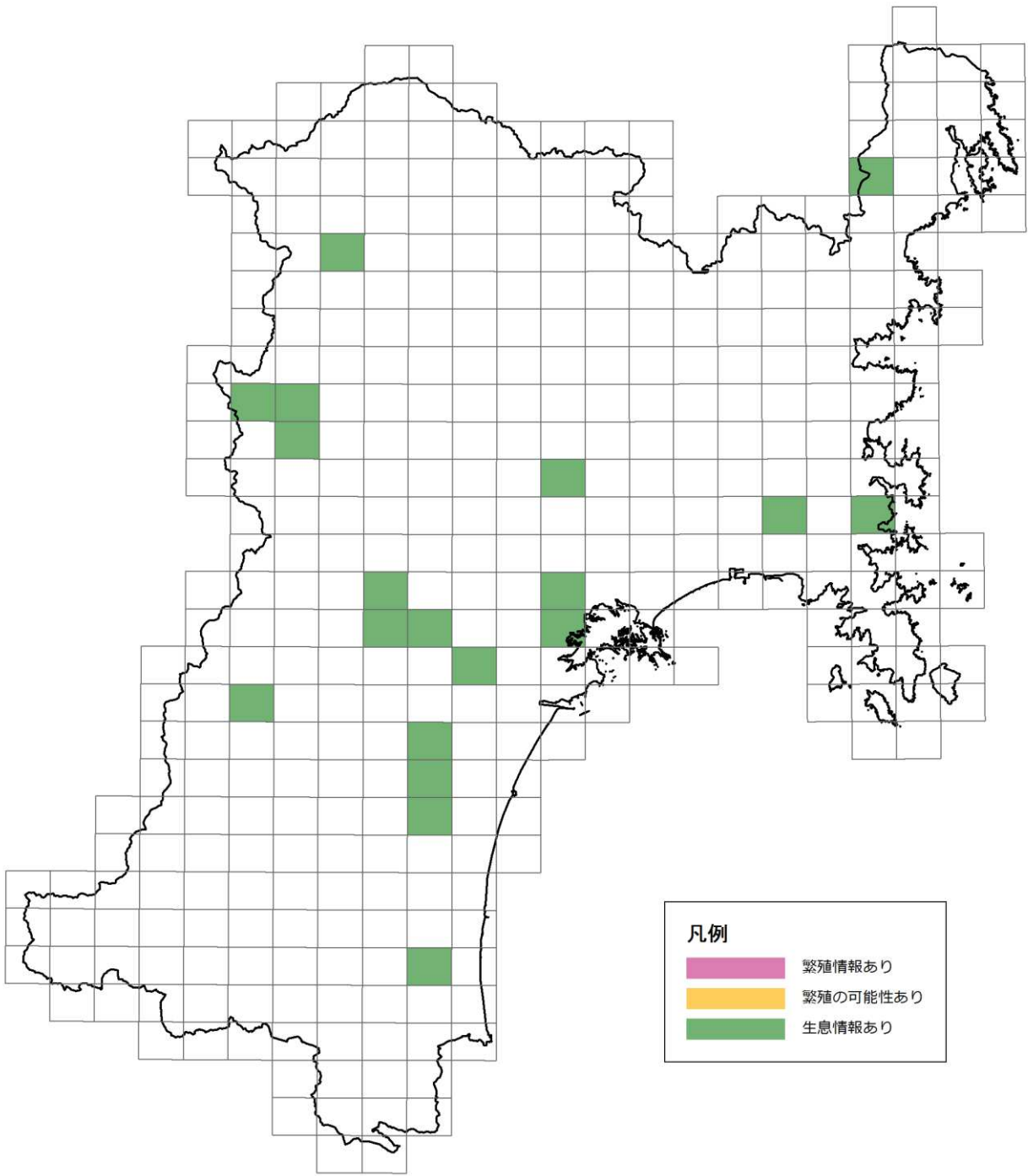


図 2-12 ツミ : 生息情報地域

2.2.12 ハイタカ

全県 380 メッシュ中、生息確認の情報があつたものは 123 メッシュであつた(図 2-13(1))。このうち、繁殖情報(繁殖の可能性ありを含む)があつたものは 5 メッシュであつた。

確認場所は北上山地や北上川流域、鳴子から二口峠にかけての山地、松島湾から仙台湾南部にかけての海岸部、内陸部の平地や丘陵地等であつた。また、営巣地の情報は 14 地点(同一ペアのものを含む)あつた(図 2-13(2))。

前回調査において生息情報があつたものは 81 メッシュあり、確認場所は北上山地や北上川流域、内陸の丘陵地や山地周辺、石巻湾から仙台湾南部にかけての海岸部等であつた(図 2-13(3))。また、営巣地の情報は 2 地点あつた。

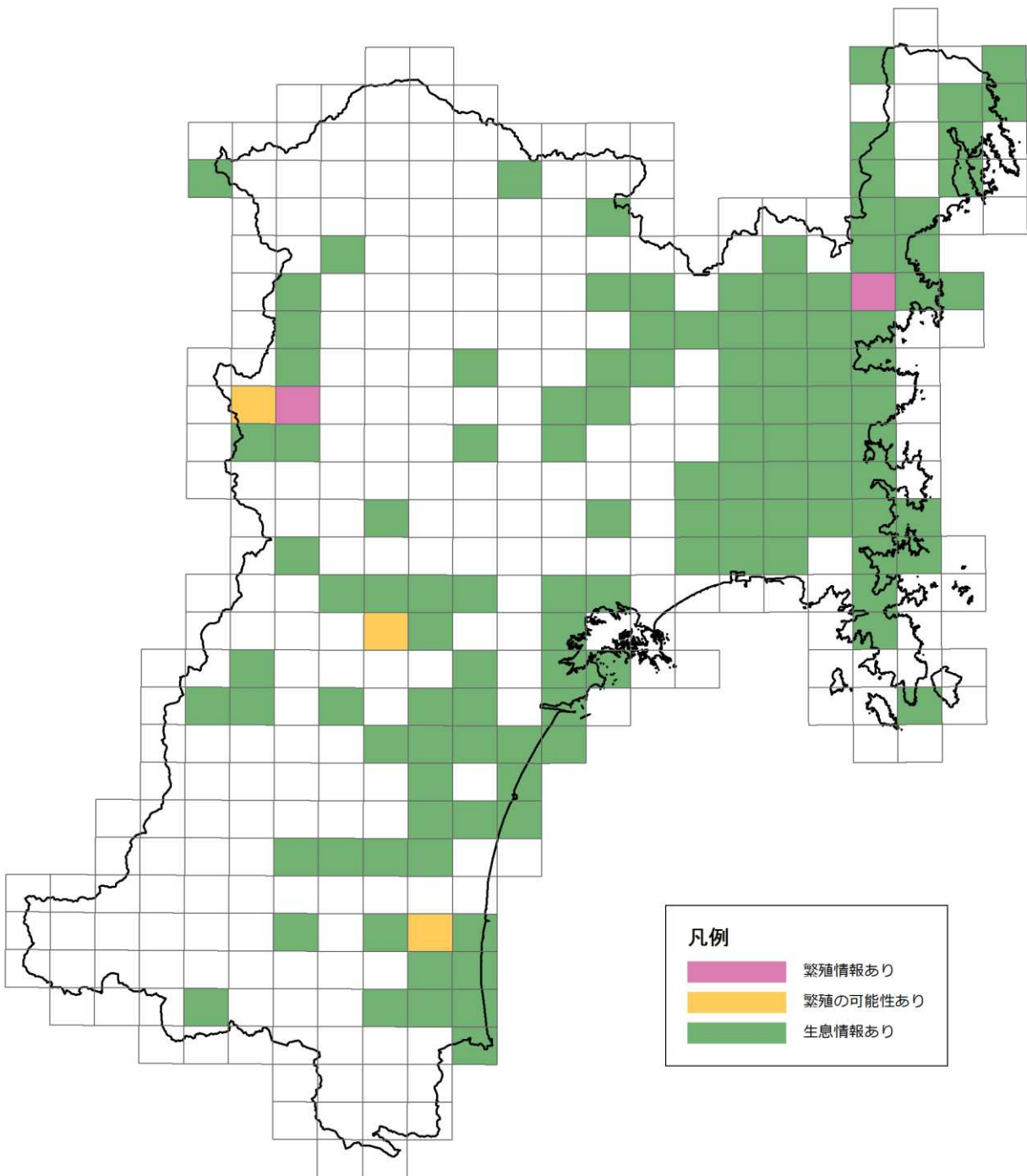


図 2-13(1) ハイタカ : 生息情報地域

種の保護の観点から非公表

図 2-13(2) ハイタカ：営巣地情報の位置

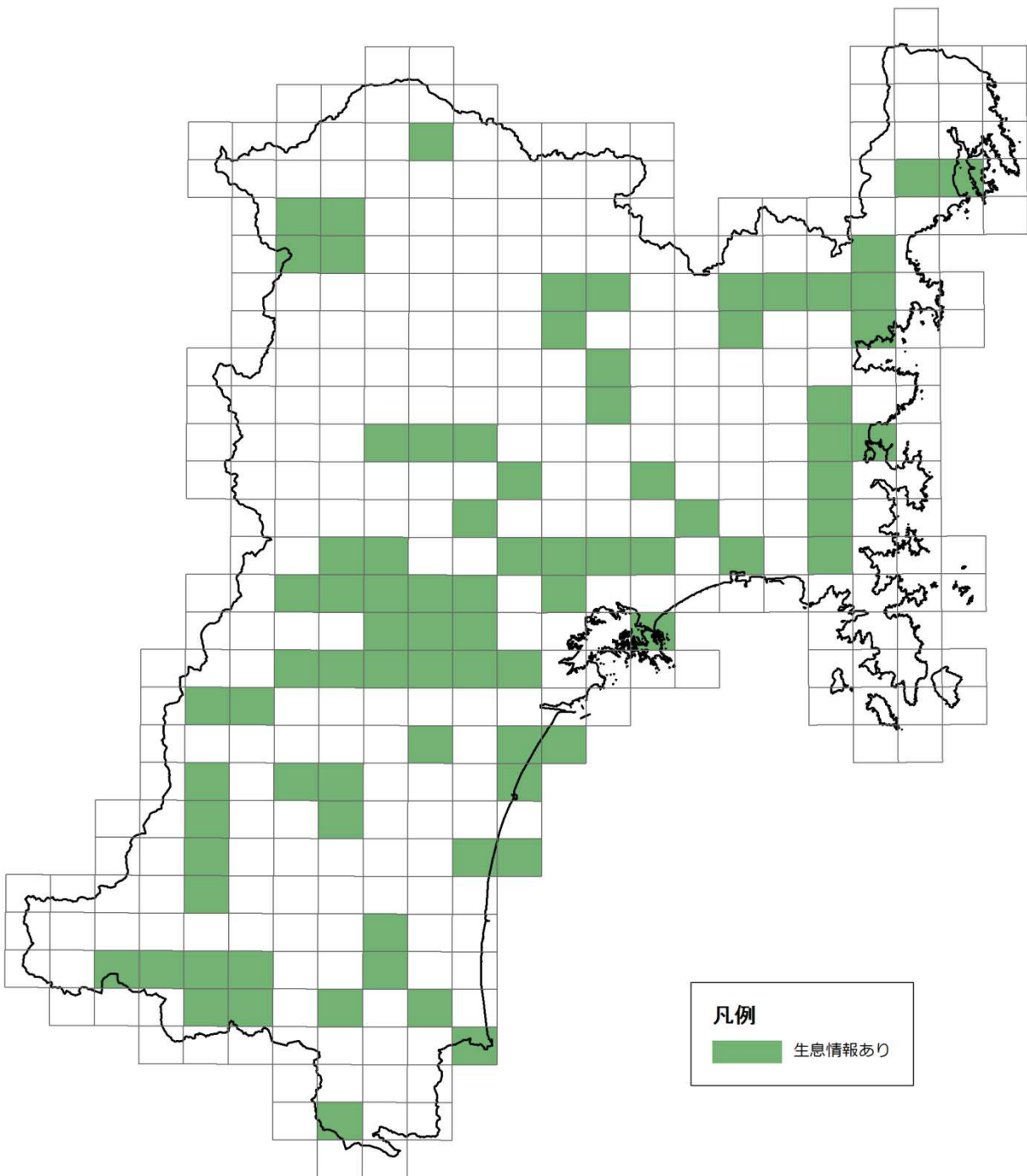


図 2-13(3) ハイタカ : 前回調査における生息情報地域

2.2.13 チゴハヤブサ

全県 380 メッシュ中、生息確認の情報があつたものは 26 メッシュであつた（図 2-14）。このうち、繁殖情報（繁殖の可能性あり）があつたものは 2 メッシュであつた。

確認場所は北上山地太平洋側の一部、北上川流域の一部、塩釜湾周辺のほか、内陸部の平地から山地にかけて散在していた。

なお、前回調査では調査対象種ではなかつたことから、生息情報は得られていない。

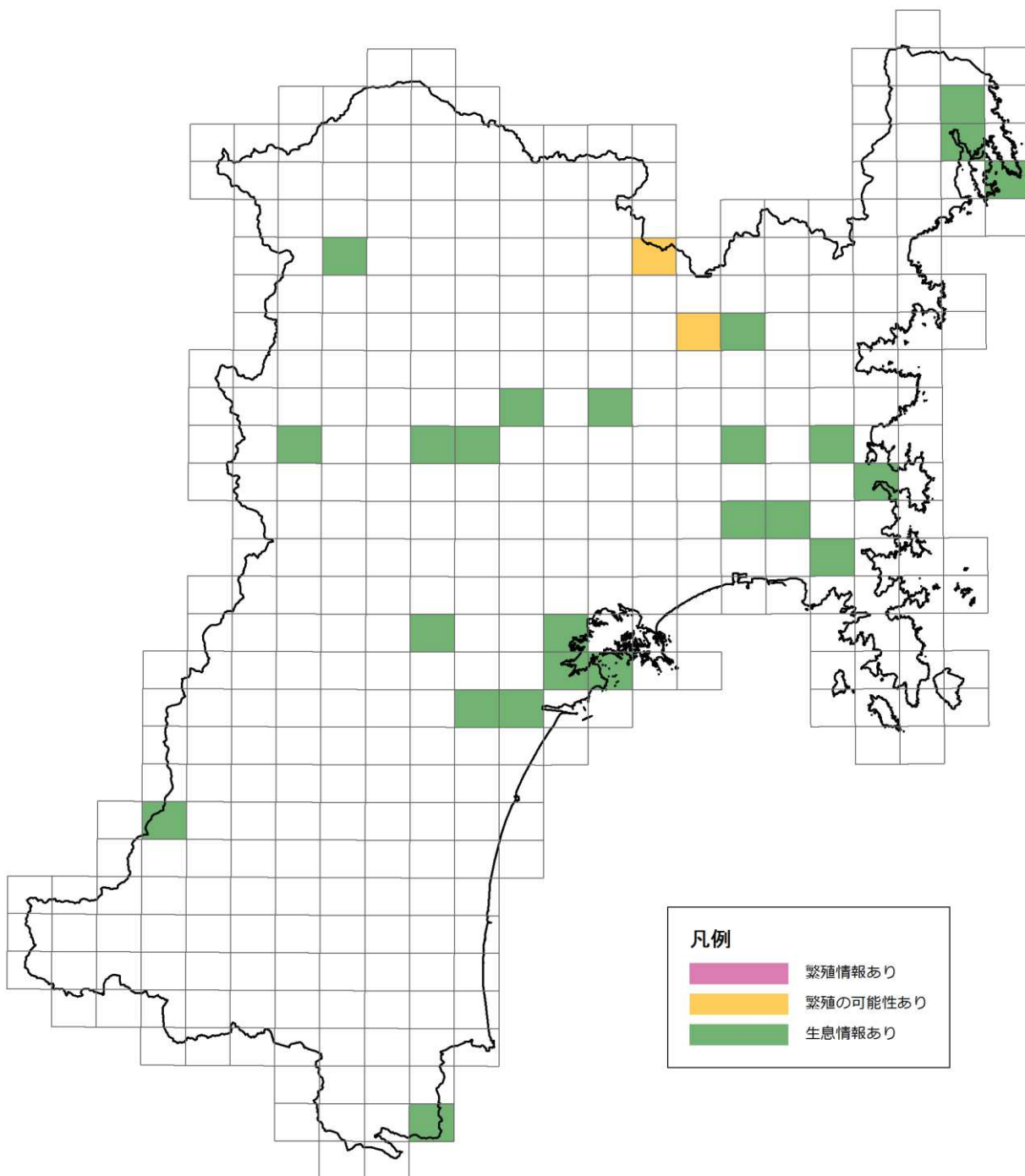


図 2-14 チゴハヤブサ：生息情報地域

参考資料-1

資料表 2(1) 調査文献一覧

No.	事業名・情報名	事業者名・著者名	発行年	データ タイプ	調査年(西暦)
1	川内沢ダム建設事業の概要	宮城県仙台土木事務所	平成 26(2014)年 7 月 17 日	調査	2014
2	大和リサーチパーク造成事業に係る環境影響評価書	宮城県土地開発公社	平成 15(2003)年 10 月	調査	2001-2002
3	仙台松島道路 4 斜線化事業 環境影響評価書	宮城県道路公社	平成 20(2008)年 3 月	調査	2004-2005
4	気仙沼市民の森風力発電事業 環境影響評価準備書	株式会社気仙沼市民の森風力発電所	平成 26(2014)年 1 月	調査	2013
5	みやぎ県北高速幹線道路事業 環境調査業務委託 報告書	宮城県北部土木事務所栗原地域事務所	平成 21(2009)年 3 月、 平成 22(2010)年 3 月、 平成 23(2011)年 3 月、 平成 23(2011)年 7 月、 平成 24(2012)年 3 月、 平成 25(2013)年 3 月	調査	2008-2013
6	払川ダムモニタリング調査	宮城県気仙沼土木事務所	平成 22(2010)年	調査	2010
7	イヌワシ・クマタカ生息実態調査 報告書	東北森林管理局	平成 20(2008)年 3 月	目撃	2007
8	平成 19 年度 都基幹 18-208 号 川内沢川環境影響評価業務報告書	宮城県仙台土木事務所	平成 20(2008)年 10 月	調査	2008
9	南三陸ワシタカ研究会調査年報	南三陸ワシタカ研究会	平成 18(2006)年～ 平成 22(2010)年、 平成 24(2012)年、 平成 26(2014)年	目撃	2005-2013
10	通常砂防 2-1-201 号 南野尻沢環境調査業務委託調査報告書	宮城県仙台土木事務所	平成 20(2008)年 3 月	調査	2007-2009
11	登米市自然環境基礎調査報告書	登米市	平成 19(2007)年 10 月	調査	2006-2007
12	愛宕山緑地環境保全地域学術調査報告書	宮城県	平成 19(2007)年 3 月	調査	2005-2006
13	沿岸被災地調査結果	宮城県自然保護課	—	目撃	2013-2014
14	傷病野生鳥獣救護に係る情報	宮城県自然保護課	—	目撃	2009-2015
15	仙台北部中核都市（奥田地区）環境影響評価事後調査 【オオタカに係る調査結果及び保護対策等】	宮城県土木開発公社	平成 20(2008)年 11 月 26 日	調査	2007-2008
16	宮城県立精神医療センター建設事業に係る環境調査業務委託資料	地方独立行政法人 宮城県立病院機構	平成 26(2014)年 6 月	調査	2014
17	宮城県レッドデータブック改定にともなう調査	日本野鳥の会 宮城県支部	—	目撃	2002-2014
18	河南町多目的ふれあい交流施設整備事業 環境影響評価書	河南町	平成 15(2003)年 3 月	調査	2001
19	平成 26 年度 松島湾の鳥類調査報告書	日本野鳥の会 宮城県支部	平成 26(2014)年 3 月	目撃	2014

資料 2(2) 調査文献一覧

No.	事業名・情報名	事業者名・著者名	発行年	データ タイプ	調査年(西暦)
20	岩沼海浜緑地・阿武隈川下流域下水道 環境影響評価書 再評価書	宮城県仙台土木事務所	平成 26(2014)年 12 月	調査	2012-2014
21	宮城県レッドデータブック改定にともなう調査	日本野鳥の会 宮城県支部	—	目撃	2002-2014
22	河南町多目的ふれあい交流施設整備事業 環境影響評価書	河南町	平成 15(2003)年 3 月	調査	2001
23	平成 26 年度 松島湾の鳥類調査報告書	日本野鳥の会 宮城県支部	平成 26(2014)年 3 月	目撃	2014
24	岩沼海浜緑地・阿武隈川下流域下水道 環境影響評価書 再評価書	宮城県仙台土木事務所	平成 26(2014)年 12 月	調査	2012-2014
25	(仮称)石巻風力発電事業 環境影響評価準備書	株式会社ユーラスエナジーホールディングス	平成 27(2015)年 1 月	調査	2013-2014
26	女川出島線道路環境調査業務	女川町	平成 27(2015)年 5 月	調査	2014-2015
27	登米市猛禽類調査 報告書	宮城県登米市	平成 25(2013)年 3 月、 平成 25(2013)年 12 月、 平成 26(2014)年 9 月	調査	2013-2014
28	オオワシ・オジロワシ一斉調査 (平成 23 (2011) 年～平成 27 (2015) 年) による宮城県結果	オジロワシ・オオワシ合同調査グループ	—	調査	2011-2015

※ データタイプは以下に示すとおり。

調査：環境調査報告書のように、ある程度網羅的に調査が行われたもの

目撃：目撃情報等の単体の記録

※ 有識者等からの聞き取りに基づく情報は、一覧に掲載していない。

※ 各種事業に係る環境調査資料や環境影響評価図書の著作権は各事業者にある。情報開示請求に対しては宮城県の規定に基づくものとする。